

石狩川河口地域植物調査報告書

調査期間 自 平成元年6月20日

至 平成元年9月30日

調査機関 石 狩 町

目 次

調査報告	1-4
概 況	1
調査の方法と時期	1
植 生 概 況	1
A. 海浜植物	2
B. 低湿地の植物	2
C. その他のいわゆる雑草と帰化植物	3
考察と結論	3
横断面Aにおける植物の頻度測定値	5
植物調査地区被度調査方形枠設置位置図	6
植 物 目 録	7-11
横断面位置図	12
横断面植生調査図	13
地域植物一覧	14-16
調査区分割図	17
各区における植物	18-29
調査資料	30-46
石狩川河口地域地形図	30
石狩川河口地域植物分布図	31-39
石狩川河口地域湿地帯植物分布図	40-46
石狩川河口地域植物標本目録	47-49
あ と が き	50

石狩川河口川口地帯の水生植物調査報告書

概況 調査区域は石狩川内、石狩川河口に形成された砂嘴の先端約1.5キロメートルにわたる部分である。三方は石狩湾と石狩川の水面を境とし、南西端は灯台南の町道を境とする。砂嘴は南西-北東方向に長く、根もと割で高く、幅広く、河口にむかうにつれて低くなる砂丘部と北西川よりの比較的平坦な部分とからなる。最高地点は...、2m面積46ha、このうちには石狩川海浜植物保護地区10.5haが含まれる。

砂丘は、海岸に沿って標高約2-8mの第一砂丘、そして、その内側に標高約3-5mの第二砂丘が砂嘴の中ほどまで続き、さらに根本の灯台一帯に、砂嘴中の最高地点を有する第三砂丘が発達している。

砂嘴なかばから先の内砂丘と川側の一帯は、おおむね標高2m以下の平坦地で、一部に水生植物の自生する小沼を有し、周辺一帯は雨後には冠水する湿地になっている。

なお、明治35年北海道庁発行の地図を参照すると、調査区域のうち河口明約1.3キロメートルはここ90年間に形成された陸地であることがわかる。

調査の方法と時期

全境にわたって、縦・横100メートル間隔のメッシュを切り、各交点にボールを置いて目印とした。

1. 植物総目録

メッシュの一区画ごとに歩いて、自生する植物のすべてを記録した。

2. 代表的海浜植物を中心に11種を選びだして、各種ごとに分布状況を歩いて調べ分布図を作成した。すなわち、ハマニンニク、コウボウムギ、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、ウンラン、ハマハクザオ、ハマエンドウ、ハマナス、ノハナショウブ、イソミレ、ススキである。その種がよく繁茂していると思われる部分は塗り潰し、自生するが密度の低い部分は斜線で表した。被度、頻度、密度については6に関する別紙資料と写真を参考にされたい。

3. 湿地部については、別に湿生植物を中心に10種を選びだし、それぞれについて分布図を作成した。すなわちオグルマ、カセンソウ、ナガボノシロワレモコウ、ノハナショウブ、イ、クサイ、イヌイ、ヨシ、ヒメシダ、コウゼンギクである。
4. 写真は、主に植物の種類同定のためのもの、小区画の繁茂状況を示すもの、景観をつかためたもの、などの観点から撮影をし別冊としてアルバムにまとめた。
5. 砂嘴の根もと(A)中ほど(B)先端部(C)計3カ所については、海から川までの地形断面図を作成するとともに、植物の優占順位を列挙した。
6. 横断線Aに沿っては1メートル四方の方形枠を計10個ランダムに配置して、それぞれの枠内の植物密度、被度、自然度等を測った。その際参考資料として「植物生態の観察と研究」沼田真編を用いた。
7. 標本は報告書提出日現在79種について作成した。不足分は追って採定する予定である。なお、標本は町より北海道大学植物園に寄贈、保管をお願いした。
8. 調査期間は6月20日から9月30日までの間で、7人の調査員が手分けをしておおよそ20日間現地に入って調査をおこなった。
9. 参考文献は以下のとおりである。

日本の植生 宮脇 昭編 昭和52年 学習研究社

植物生態の観察と研究 沼田 真編 昭和60年 東海大学出版会

植生概況

今回の調査で確認された植物は、草本125種、木本15種、計140種である。このうち帰化植物は30種、その全種類数に占める割合は22%である。

これをおおまかに3つにわけ、A. 海浜植物(ハマニンニク、コウボウムギ、ハマナス、ハマエンドウなど)、B. 湿地性および水生植物(ナガボノシロワレモコウ、イヌイ、ヨシ、ヒメシダなど)、C. その他(セイヨウタンポポ、オオマツヨイグサ、ナガハグサなど)とすると、それぞれの種類数はA14、B30、C95で、全構成数に占める割合は、A10%、B22%、C68%となる。

調査区域の植生を特徴づけるものは、砂丘部における海浜植物と、B・C地区川側の低湿地における湿生植物といえる。Cのその他の多くは川側低地および道沿いに見られ、一部はA・Bの領域内にも混入して生育している。

A. 海浜植物

調査区域の植相を最も特徴づけているもので、浜から砂丘にかけて典型的に産列された海浜植物を見ることが出来る。

とくに、砂丘の安定した灯台寄りの一帯では密度の高い群落のみられ、ハマナス、ハマエンドウ、ウンラン、イソスミレといった花の美しい植物が隣接または混生しつつ、随所に自然の花崗の景観を呈している。

これらの海浜植物帯はB、C地区川寄りの湿地では勢いが衰え、いはば湿原をかわずようい海側砂丘よりに分布をのびつつ先端に向かう傾向が見られる。

ここで、海岸から川側にむかって、植物の出現の順序と分布状況を見てゆく。まず、砂丘の前面にあって波打ち際からもっとも近く、潮流物が打ち上げられるあたりに現れるのがオカヒジキである。これは好窒素性の1年性植物で点々と小群落のみられるが多くない。

つぎに、砂丘の最も外縁部まで出ているのはハマニンニクで所によっては崩れかけた砂の崖に地下茎から数10cmの深さでおろした根がカーテンのように探出しているのが見られる。

ハマニンニクと隣接しつつ、コウボウムギ、ハマニガナ、ハマボウフウといったその他の先駆植物があらわれる。広くて深い根によって砂の移動にたいする抵抗力をもった植物群である。これは砂に埋まっても根を土に留めて新たな芽を出して生育をつづける。コウボウムギは砂の堆積の多いところにハマボウフウとともに優占しつつハマニンニクよりも奥の方まで分布域をのびている。ハマニガナは第一砂丘上にみられるが多くない。

コウボウムギ、ハマニガナにややおくれて、やはり長い地下茎をもつハマヒルガオがあらわれる。第一砂丘のかけの部分によく生育し、内陸部ではハマナスなどの他の海浜植物の密生地帯をさけて、川岸の低地でふたたび勢いをえている。他の海浜植物にくらべて、湿地帯による影響がうすいようである。

砂丘から内側のやや安定した砂の上には、ウンランが帯状に分布する。次にくるハマナス帯と、ときに混生しつつ所によっては密生した純群落をつくっている。

ハマハザオはウンランにながれ重なりつつ、奥にむかってかなり広範囲に分布して

いる。とくに第二砂丘の斜面に密集した群落が多い。

ハマエンドウの分布域はほぼハマナスと重なって、ハマナスと隣接または混生することが多い。ただしハマナスが砂丘部全体に連続的に繁茂しているのにくらべて、ハマエンドウは砂丘の谷から斜面を埋めるように分布して、群落の広がりがより限られている。

さて、ハマナスであるが、これは第一、第二砂丘と川岸の低地をのぞいたほぼ全域に分布している。第一、第二砂丘上にはほとんど生育しないが、しても限られているハマナスが第三砂丘にはきわめてよく繁茂し、その延長上とみられる一帯でも連続的に分布して比較的安定した砂面を覆っているのは興味深い。

他の海浜植物と同様に、湿地では丈も低く葉もチリチリ状で勢いが衰えるが、湿原をかわずようい海側と先端部に分布域をのびし、その外縁部ではハマニンニク、コウボウムギなどに代わっている。

ハマナスは全体として安定した生育のみられるが、道内の他の自生地、たとえば湿原、湧き水などの生育状況にくらべて樹高は明瞭に低く平均樹高は20cm内外である。これには気象条件とともに季節風の強さが大きな要因であることが考えられる。花の大きさでは優れるとの見方もあるが、これは今回の調査では扱わなかった。いずれにしても群落は道内第一級の規模といつてさしつかえない。

ハマナスの分布域から川岸までの比較的低い所にかけて、イソスミレの群落が散在する。とくに第三砂丘の斜面のA2地区、川よりの低地であるA7地区には多い。しかし、第二砂丘付近や先端近くにも群落がとびとびにみられる。イソスミレは、北海道では西南部の日本海側にのみ産する点で貴重な植物であり、これほど大規模な群落は北海道では他に例がないのではないと思われる。

B. 低湿地の植物

調査分割図上B4からB8にかけてと、川岸側を含むこの地区は元来石狩川の水域内もしくは対岸の陸地であった所が、砂嘴の発達とともに流水域となり、ふたたび流砂が堆積したと思われる、標高2m以下の平田地である。晴天がつけば乾き、雨が降れば冠水する湿地で主に湿生植物で覆われている。ただし、塩湿地の植性はほとんどみられない。

水辺の近くおよび雨後に水路をつくる所ではオギ、ヨシが茂り、より乾燥するにつれ

てスキガ侵入し内部にまでひろがっている。

B 3 地区には小沼があって水生植物でスズレン科のヒツジグサ、イグサ科のフトイが自生している。また、この一帯にはヒメシダ、ナガボノシロワレモコウ、ホソバノヨツバムグラ、サワギキョウ、タチギボシ、アキノキリンソウ、モウセンゴケなど低層および中層層に見られる植物が留生している。このほかオグルマ、カセンソウ、エゾリンドウ、ミズオトギリ、ノハナショウブなど美しい花を咲かせる種類が少なくない。ただし、ヒツジグサ、サワギキョウ、モウセンゴケ、エゾリンドウ、ミズオトギリについては、個体数は数本から10数本ときわめてかざられている。なお、とくに湿生植物ではないユウゼンギクの広い分布がみられる。

オグルマおよびカセンソウ、ユウゼンギク、ナガボノシロワレモコウ、ノハナショウブ、イグサ類、ヨシ、ヒメシダの分布は別図を参照されたい。

C. その他のいわゆる雑草と帰化植物

A、Bの領域でのべてきた自然植生のほかに、堤防の建設や道路の整備、外部の人間の入り込みによると思われる植生、さらに周辺環境からの影響とくに川の水による植生をみる事ができる。

灯台の堤防付近には道路のノリ面処理に用いられるウシノケグサが多量にみられるほか、カモガヤ、エノコログサ、コメカグサ、シロツメグサなど侵食防止に用いられる種が道路周辺と旧道路上にも見られる。

また、ヒメムカシヨモギ、オオマツヨイグサ、メマツヨイグサ、アワダチソウ類といった空き地や路傍にごく一般的にみられる帰化植物類も、主として道路沿いに少なからず生育している。道路に限らずひろく全域に侵入している帰化植物として、タンポポドキ、カモガヤ、ナガハグサ、コメカグサなどがあげられる。

最後はハマナス以外の木本であるが、灯台周辺にハリエンジュ（ニセアカシヤ）の木立とB4地区の道路沿いに、ポプラ、ツルメモドキの木立がやや自立つ。そのほかA地区にはアキグミ、B、C地区の湿地にはケヤマハンノキ、シラカンバが散在する。また低地全域にわたってエゾノカワヤナギ、イヌコリヤナギがみられるが樹高はいずれも高くない。

考察と結論

当地区は、海岸砂丘と砂丘後部の湿地を有する海岸地区として、典型的な海岸植物の生育がみられ、一種の自然庭園をなしている。もとより海岸は強い紫外線、塩分の影響、乾燥、砂の移動、貧栄養状態、それに北海道の場合は気温の低さ、石狩河口では特有の風の強さ等、植物にとって高山にも匹敵する悪条件がそろうている。そのために、そこに生育する植物の種類も限られており、それらはいずれもこれらの条件に耐えるための構造をそなえている。汀線から砂丘、砂丘後部地、そして川岸と、それぞれの環境に対応した植物の出現の状況、順序、密度などはそのまま自然の典型を学ぶ理想的な教室である。自然の大部分が人為的に改変させられている今日、このような自然草原の価値はきわめて高く、これを管理する地域の責任は重大である。

平成元年春、河川審議会に報告された北海道開発局および北海道河川管理基本計画でも、道内主要六河川のうち石狩川水系の基本テーマは「北の大地の文響架石狩川」とあり、その利用のしかたとして、自然ゾーン、自然利用ゾーン、整備ゾーンのうち石狩川河口海岸植物群落は、基本的に自然を原始のまま残す自然ゾーンに分類されている点、考慮にいれるべきである。

文明のかけで貴重な動植物が失われ、人類自身の存続さえ危ぶまれているこの不安な時代に、人間が生きる喜びと心のうらおいをとりもどし、生命の美しさを認識し、自らのおごりを反省できるのはまさに自然の中で以外にはない。

事実この石狩河口には、年間を通して札幌方面をはじめ道内各地、はては本州各方面からさき海岸植物、オジロワシ、シギ、チドリなどの野鳥（過去十年間に観察された野鳥の種類は約10種）、また最近ではアザラシなどの野生動物の観察に、あるいは、単に海や夕日を見に訪れてくる人々やグループが絶えない。この人々に共通の感動を与えるものは個々の対象をこえて人々を包み込む石狩の自然の雄大さ、荒々しさである。決して庭園的景観ではなく、大河と海と砂という原自然が突きあげている原初のドラマである。

さて人々が自然をたのしみ、自然に学ぶ場をつくるためには、まずその自然が持続しなければならぬ。人々が楽しむ行為が自然の破壊をまねくようでは木末頭割といわねばならない。いまハマナスを例にとれば、その分布範囲は予想以上にひろく、道内第一級の

群生地となっている。しかし、群落として安定しているようにみえるが、こまかく観察すると、地盤には表記されないほどの地面の凹凸に微妙に対応しつつ、内陸部の斜面に最もひろく密生している。そして湿地では明らかに生育状況が悪い。砂丘の前面ではまったく見られないのはいうまでもない。他の高山植物と同様、植物じたいの生命力は強いが、地球全体の体系は微妙な配列とバランスの上になりたっていて、ちょっとした環境の変化がその生育の可能性をはっきりと左右している。

道路をつけたことが、その周辺の植生の破壊と乾燥化をもたらしている「雨沼」の例をあげるまでもなく町内ですでに行われたカシワの移植、ハマナスの植栽の困難さをもみても、厳しい条件下の自然が決して人間の手で再生出来るものではないことは明瞭である。たとえば、砂丘の浸食は、砂の安定度や風の流れ、有機質の蓄積量の変化につながる。また、道路の建設や盛土など、新たな砂利や土の搬入は、本来貧栄養状態のうえでありたっている植物体系に、破壊的な変化をもたらす。人の通行による雑草などの種子の侵入も同様である。さらに、当地区の面積がきわめて限られていること、種によっては植物の個体数がごく少ないことにも留意すべきである。調査のために数人の人数が踏み込んだだけでも、草原中に小径ができてしまう。若し、無制限に人々が歩き回ったら今ある植生は、石狩川のハマボウフウの例に違わず荒はてたものとなること必定である。

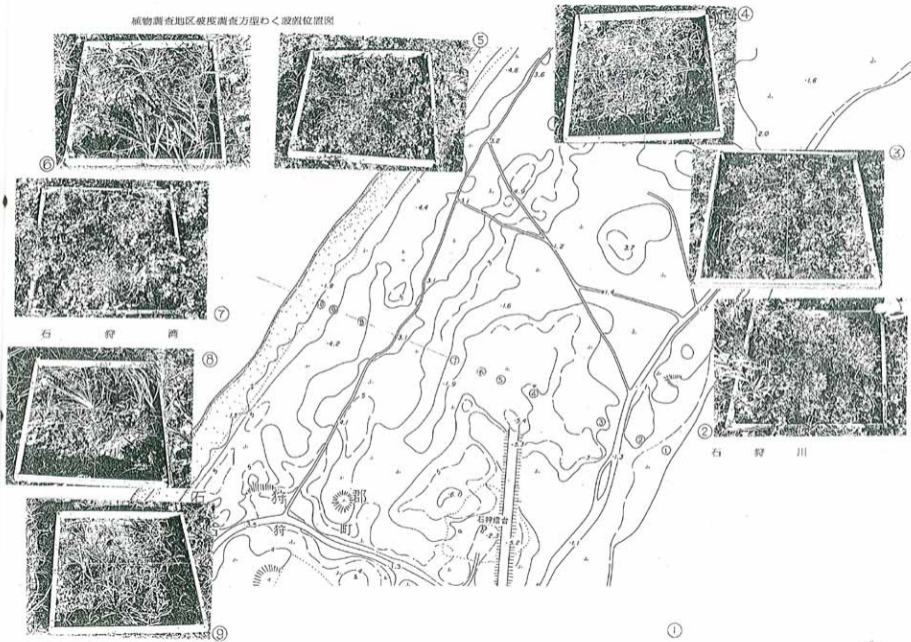
以上のような観点から、この地は自然が築きあげてきた雄大な地形と変化にとんだ植生をそのまま生かすのが最も賢明である。道路については現状のかたちにとどめると同時に、これ以外無防犯がらめように低い期あるいはそれに類するものを設ける程度とする。ただし、湿地の部分については踏みつけによる乾燥化を防ぐため、木道を設けるなどの工夫がほしい。そのうえで、自然を保護する一方、当区域近くの展望のきく位置に「学習のための施設」として、ウトナイ湖、川湯温泉、阿寒湖、知床などに設けられているビジターセンターに類する施設を設け、資料展示、スライド、望遠鏡などを備えることを提案したい。このような方法でこそ、この自然も生かされ、人々のたのしみも充実したものになると確信する。

なお、このような調査は、本来もっと長期にわたって、すくなくとも1年は通して行われるべきものである。よって今後ともこれを継続し、今回カバーできなかった季節ごとの調査を補うとともに、さらに詳細な研究がなされることを切に望みたい。

調査種カ所数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	頻度	
ハマナス	本数	0	31	45	15	35	21	16	0	0	0	60%
	被度%	0	40	40	20	60	30	40	0	0	0	
イソスミレ	本数	2	14									20
	被度%	10	10									
ハマエンドウ	本数	0	25			0	40	3				30
ハマニンニク	本数	10				15	7	1				40
ハマニガナ	本数		10			56	11		1			40
コウボウムギ	本数		14	68	29	12	11	51	34			70
ハマハタザオ	本数		4	6	12	8	4					50
ウンラン	本数		30			2	15					30
ハマボウフウ	本数					2	13	45	5			40
オカヒジキ	本数								3			10
メマツヨイグサ	本数	2										10
ヘラオオバコ	本数	59	2									20
ヒメスイバ	本数	1										10
シロツメクサ	本数	1										10
コウボウシバ	本数	1										10
チャシバスゲ	本数		30		16							20
アキメヒシバ	本数	29										10

ヒメムカシヨモギ	本数	2											10
エゾカワラマツバ	本数	19											10
ススキ	本数	2											10
ナガハグサ	本数	1											20
オオヤマフスマ	本数	4											10
カモガヤ	本数	5	2										20
ホソバノヨツバムグラ	本数	2											10
ヒメスイバ	本数		7	40	13								30
スズメノヤリ	本数				3								10
ヒカゲスゲ	本数										多数		10
ブタナ	本数	10											10
種数		20	10	7	5	6	8	4	7	3	4		
自然度%		65	70	100	100	100	100	75	100	100	100		100
植被率%													
平均高さcm		10	20	8	7	12	13	22	7	7			

植物調査地区坡度調査方型わく設置位置図



石狩川

石狩川

石狩市川口地区の植物区系調査

植物目録

- 植物目録の構成は科名(和名、学名)、標準和名、学名からなる。
 ○標準和名および学名、科の配列は下記の文献に従った。
 北村四郎・村田 源・堀 勝: 原色日本植物図鑑 草本編 I 保育社
 北村四郎・村田 源: 原色日本植物図鑑 草本編 II 保育社
 北村四郎・村田 源・小山健夫: 原色日本植物図鑑 草本編 III 保育社
 長田武正: 原色日本樹化植物図鑑 保育社
 田川基二: 原色日本羊歯植物図鑑 保育社
 服部新佐・岩月善之介・水谷正美: 原色日本蕨類図鑑 保育社
 吉村 庸: 原色日本地衣植物図鑑 保育社
 北村四郎・村田 源: 原色日本植物図鑑 木本編 I, II 保育社
 ○帰化植物には *印を附した。

草 本

被子植物門 ANGIOSPERMAE

双子葉植物綱 Dicotyledoneae-合弁花亜綱 Sympetalae

きく科 Compositae

ノグシ*

Sonchus oleraceus L.

ハチジョウナ

Sonchus brachyotus DC.

ハマニガナ

Ixeris repens (L.) A. Gray

アキノノグシ

Lactuca indica L.

トゲチンヤ*

Lactuca scariola L.

ヤナギタンポポ

Hieracium umbellatum L.

コウゾリナ

Picris hieracioides L. subsp. *japonica* (Thunb.) Krylv.

タンポポモドキ (アタナ)*

Hypochoris radicata L.

セイヨウタンポポ*

Taraxacum officinale Weber

タカアザミ

Cirsium pendulum Fisch.

ノボロギク*

Senecio vulgaris L.

ハマオトコヨモギ

Artemisia japonica subsp. *littoricola* Kitam.

エゾヨモギ (オオヨモギ)

Artemisia montana (Nakai) Pamp.

ノコギリソウ

Achillea sibirica Ledeb.

セイヨウノコギリソウ*

Achillea millefolium L.

アメリカセンダングサ*

Bidens frondosa L.

アキタブキ

Petasites japonicus (Sieb. et Zucc.) Maxim. subsp. *giganteus* (Fr. Schum.) Kitam.

オグルマ

Inula britannica L. subsp. *japonica* Kitam.

カセンソウ

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.

ヒメムカシヨモギ*

Erigeron canadensis L.

ヒメジョオン*

Erigeron annuus (L.) Pers.

ユウゼンギク*

Aster novi-belgii L.

オオアワダチソウ*

Solidago gigantea Ait. var. *leiophylla* Fern.

セイトカアワダチソウ*

Solidago altissima L.

アキノキリンソウ

Solidago virga aurea L. subsp. *asiatica* Kitam.

ヒヨドリバナ

Eupatorium chinense L. var. *simplicifolium* (Makino)

イガオナモミ*

Xanthium italicum Moretto

ききょう科 Campanulaceae

サワギキョウ

Lobelia sessilifolia Lamb.

あかね科 Rubiaceae

アカネムグラ

Rubia jesoensis (Miq.) Miyabe et Miyake

エゾカワラマツバ

Galium verum L. var. *trachycarpum* DC.

キバナノカワラマツバ

Galium verum L. var. *asiaticum* Nakai

ホソバノヨツバムグラ

Galium trifidum L. var. *brevipedunculatum* Regel

おおばこ科 Plantaginaceae

ヘラオオバコ*

Plantago lanceolata L.

オオバコ

Plantago asiatica L.

ごまのはぐさ科 Scrophulariaceae

ウンラン

Rinaria japonica Miq.

なす科 Solanaceae

オオマルバノホロシ

Solanum megacarpum Koidz.

しそ科 Labiatae

エゾシロネ

Lycopus uniflorus Michx. L. *coreanus* Lev.

シロネ

Lycopus lucidus Turcz.

ヒメシロネ

Lycopus maackianus (Maxim.) Makino

エゾイヌゴマ

Stachys Riederi Chamisso var. *villosa* (Kudo) Kitam.

ナミキソウ

Scutellaria strigillosa Hemsl.

エゾナミキソウ

Scutellaria strigillosa Hemsl. var. *ezoensis*

ひるがお科 Convolvulaceae

ハマヒルガオ

Calystegia soldanella (L.) Roem. et Schult.

りんどう科 Gentianaceae

エゾリンドウ

Gentiana triflora Pall.

さくらそう科 Primuraceae

クサレダマ

Lysimachia vulgaris L. subsp. *daurica* (Ledeb.) Tatew.

双子葉植物綱 Dicotyledoneae-離弁花亜綱 Choripetalae

せり科 Umbelliferae

オオチドメ

Hydrocotyle ramifera Maxim.

ドクゼリ

Cicuta virosa L.

ハマボウフウ

Glehnia littoralis Fr. Schum.

ありのとうぐさ科 Hararagaceae

アリノトウグサ

Hararagis micrantha (Thunb.) R. Br.

あかばな科 Onagraceae

オオマツヨイグサ*

Oenothera erythrosepala Borbas O. Lamarckiana Speg.

マツヨイグサ*

Oenothera biennis L.

みそはぎ科 Lythraceae

エゾミソハギ

Lythrum Salicaria L.

すみれ科 Violaceae

イソスミレ

Viola Grayi Fr. et Sav. V. *senamiensis* Nakai

おとぎりそう科 Guttiferae

ミズオトギリ

Triadenum japonicum (Blume) Makino *Hypericum crassifolium* (Blume) Nakai

オトギリソウ

Hypericum erectum Thunb.

ぶどう科 Vitaceae

ノブドウ

Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv. A. *heterophylla* (Thunb.) Sieb. et Zucc. non blume

まめ科 Leguminosae

メドハギ

- Lespedeza cuneata* (Du Mont de Courset) G. Don L. sericea Miq.
- ミヤコグサ
Lotus corniculatus L. var. japonicus
- エゾノレンリソウ
Lathyrus palustris L. subsp. pilosus (Cham.) Hulten.
- ハマエンドウ
Lathyrus maritimus (L.) Bigel.
- ムラサキツメクサ*
Trifolium pratense L.
- シロツメクサ*
Trifolium repens L.

ばら科 Rosaceae

オニシモツケ

- Filipendula kamschatica* (Pall.) Maxim.
- ナガホノシロワレモコウ
Senguisorba tenuifolia Fisch. alba (Trautv. et Mey.) Kitam.
- エゾノミツモトソウ*
Potentilla norvegica L.

もうせんごけ科 Droseraceae

モウセンゴケ

- Drosera rotundifolia* L.

あぶらな科 Cruciferae

ハマハタザオ

- Arabis Stelleri* DC. var. japonica (A. Gray) Fr. Schmidt
- ハルザキヤマガラシ*
Barbarea vulgaris R. Br.

きんぼうけ科 Ranunculaceae

アキカラマツ

- Thalictrum minus* L. var. hypoleucum

すいれん科 Nymphaeaceae

ヒツジグサ

- Nymphaea tetragona* Georgi

なでしこ科 Caryophyllaceae

カワラナデシコ

- Dianthus superbus* L. subsp. longicalycinus (Maxim.) Kitam.
- D. superbus* F. longicalycinus Maxim., *D. longicalyx* Miq.

ムシトリナデシコ*

- Silene Armeria* L.
- オオヤマフスマ
Moeblingia lateriflora (L.) Fenzl
- ハコベ
Stellaria media (L.) Villars *S. media* var. minor Makino

あかざ科 Chenopodiaceae

オカヒジキ

- Salsola komarovii* Iijin
- シロザ*
Chenopodium album L.

たで科 Polygonaceae

ヒメスイバ*

- Rumex Acetocella* L.
- エゾノギシギシ*
Rumex obtusifolius L.
- ハイミチヤナギ
Polygonum arenastrum L.
- サナエタデ
Polygonum lapathifolium L.
- イヌタデ
Polygonum longisetum De Bruyn *Polygonum Blumi* Meisn.
- オオイタドリ
Polygonum sachalinense Fr. Schmidt

単子葉植物綱 Monocotyledoneae

らん科 Orchidaceae

ネジバナ

- Spiranthes sinensis* (Purs.) Ames subsp. australis (R. Br.) Kitam. *Neottia australis* R. Br. Brodr. 319 (1810).
- Spiranthes australis* (R. Br.) Lindley

あやめ科 Iridaceae

フハナショウブ

- Iris ensata* Thunb. var. spontanea (Makino) Nakai
- キショウブ*
Iris pseudacorus L.

ゆり科 Liliaceae

オニユリ

- Lilium lancifolium* Thunberg L. *tigrinum* Ker-Gawl.

- タチギボシ
Hosta rectifolia Nakai *H. atropurpurea* Nakai, *H. sachalinensis* Koidzumi
- いぐさ科 Juncaceae
 イ
Juncus effusus L. var. *decipiens* Buchen.
 イヌイ (ヒライ)
Juncus yokoscensis (Fr. et Sav.) Satake J. *Fauriei* Lev. et Vant.
 クサイ
Juncus tenuis Willd.
 スズメノヤリ
Luzula capitata (miq.) miq. L. *campestris* var. *capitata* miq.
- かやつりぐさ科 Cyperaceae
 フトイ
Scirpus lacustris L. subsp. *creber* (Fern.) T. Koyama S. *validus* Vahl, S. *lacustris* auct. jap. non L., S. *Tabernaemontani* auct. jap. non Gmel.
 アブラガヤ
Scirpus Wichurii Bockl. forma *concolor*
 コウボウムギ
Carex kobomugi Ohwi
 ヒカゲスゲ
Carex humilis Less. subsp. *lancoolata* T. Koyama C. *subpediformis* Sato et Suzuki, C. *lancoolata* Boott.
 チャシノスゲ
Carex caryophylla Latour. subsp. *microtricha* T. Koyama C. *microtricha* Franchet.
 コウボウシバ
Carex pumila Thunb.
 ヤラメスゲ
Carex Lyngbyei Hornem.
 ゴウシ
Carex pruinosa Boott subsp. *Maximowiczii* Kuhn. C. *Maximowiczii* Miquel
- いね科 Graminaceae
 ハマニシタ (デンキグサ)
Elymus mollis Trinius
 ウシノケグサ
Festuca ovina L.
 カモガヤ^{*}
Dactylis glomerata L.
 スズメノカタビラ
Poa annua L.

- ナガハグサ^{*}
Poa pratensis L.
 ヌマガヤ
Molinia japonica Hackel
 ヨシ
Phragmites communis Trinius
 コヌカグサ^{*}
Agrostis alba L.
 エゾヌカゴ
Agrostis scabra Willd.
 スズメノテッポウ
Alopecurus aequalis Sobol. var. *anurensis* (Komar.) Ohwi
 イワノガリヤス
Calamagrostis canadensis (Michx.) Nutt. var. *Langsdorffii* (Link) Inan *Calamagrostis Langsdorffii* (Link) Trin., *D. Langsdorffii* (Link) Kunth
 ヤマアワ
Calamagrostis Epigeios (L.) Roth
 タイヌビエ
Echinochloa Crus-galli P. Beauv. var. *hispidula* Honda
Panicum hispidulum Retz.
 キンエノコロ
Setaria glauca (L.) P. Beauv. *Panicum glaucum* L., *Setaria pumila* Roem. et Schult.
 エノコログサ
Setaria viridis (L.) p. Beauv. var. *minor* (Thunb.) Ohwi
 アキメヒシバ
Digitaria violascens Link *Digitaria chinensis* Hornemann
 オギ
Miscanthus sacchariflorus (Maxim.) Benth.
 ススキ
Miscanthus sinensis Anderss.

した植物門 PTERIDOPHYTA

- とくさ科 Equisetaceae
 スギナ
Equisetum arvense L.
 トクサ
Equisetum hyemara L.
- はなからび科 Botrychiaceae
 フユノハナワラビ
Sceptridium ternatum (Thunb.) Lyon

おしだ科 Aspidiaceae

コウヤワラビ

Oncoclea sensibilis L. var. *interrupta* Maxim.

ヒメシダ

Lastrea thelypteris (L.) Bory

蘚苔植物門・Bryophyta

みずごけ科 Sphagnaceae

ミズゴケ属 sp.

すぎごけ科 Polytrichaceae

スギゴケ科 sp.

子囊菌類(子囊地衣類)・Ascomycetes

はなごけ科 Cladoniaceae

ハナゴケ

Cladonia rangiferina (L.) Web.

木 本

被子植物門 ANGIOSPERMAE

双子葉植物綱 Dicotyledoneae-合弁花亜綱 Sympetalae

すいかずら科 Caprifoliaceae

キンギンボク

Lonicera Morrowii A. Gray

Caprifolium Morrowii (A. Gray) O. Kuntze

双子花植物綱 Dicotyledoneae-離弁花亜綱 Choripetalae

ぐみ科 Elaeagnaceae

アキグミ

Elaeagnus umbellata Thunb. *E. parvifolia* Wall. et Boyle,

E. crispa Thunb.

ぶどう科 Vitaceae

ヤマブドウ

Vitis Coignetiae Pulliat *V. amurensis* Rupr. var. *Coignetiae* (Pulliat) Nakai

にしきぎ科 Celastraceae

ツルウメモドキ

Celastrus orbiculatus Thunb. *C. articulatus* Thunb.,

C. insularis Koiz. *C. Tatarinowii* Rupr.

まめ科 Leguminosae

ハリエンジュ (ニセアカシア) *

Robinia pseudo-acacia L. *Pseudacacia odorata* Moench

イタチハギ (クロバナエンジュ) *

Amorpha fruticosa L.

ばら科 Rosaceae

ハマナス

Rosa rugosa Thunberg *R. rugosa* var. *Thunbergiana* C. A.

ナワシロイチゴ

Rubus parvifolius L. *R. triphyllus* Thunb. *R. chinensis* Thunb.

かばのき科 Betulaceae

ケヤマハンノキ

Alnus hirsuta Turcz.

シラカンバ

Betula platyphylla Sukatchev var. *japonica* (Miq.) Hara

やなぎ科 Salicaceae

イヌコリヤナギ

Salix integra Thunberg *S. purpurea* Miquel etc. non L.

エゾノカワヤナギ

Salix Miyabeana Seem. *S. Makinoana* Seeman parte,

S. saporocensis Level.

セイヨウハコヤナギ (ボブ) *

Populus nigra L. cv. *Italica*

エゾヤマナラシ

Populus tremula var. *Davidiana* (Dode) Schneider *P. Davidiana*

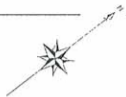
Dode, *P. jessoensis* Nakai

くるみ科 Juglandaceae

オニグルミ

Juglans mandshurica Maxim. subsp. *Sieboldiana* (Maxim)

石狩川河口地域横断面位置图

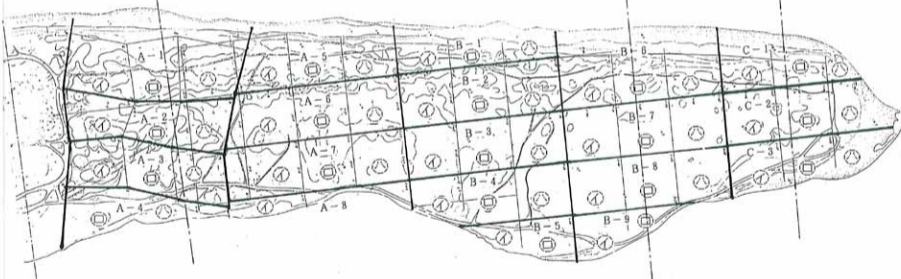


日本海

A断面

B断面

C断面



石 狩 川

石狩川河口川岸域の植物区系

1989. 9. 15. 現在

科名	植物名	摘 要
キク	ノゲシ	川岸道路上に見られるがすくない。
"	ハチジヨウナ	A4の川岸に自生しているが少ない。
"	ハマニガナ	全域に見られるも海岸砂丘に多い。
"	アキノノゲシ	A4の川岸に自生し小群落あり。
"	トゲチシヤ	A4の川岸に自生しているが少ない。
"	ヤナギタンポポ	B区域の中央部と道路間に多く見られる。
"	コウゾリナ	B地区の道路周辺に多く見られる。
"	タンポポモドキ	海岸砂丘を除き全域に散見される。
"	セイヨウタンポポ	管理道路周辺に見られるも少ない。
"	タカアザミ	C地区の砂丘に自生しているが少ない。
"	ノボロギク	A4の管理道路上に見られる。
"	ハマオトコヨモギ	B地区の湿地に自生しているが少ない。
"	エゾヨモギ	A, B地区の道路周辺に見られるが少ない。
"	ノコギリソウ	B区域の湿地内の乾燥地に多い。
"	キヨウノコギリウ	A4の湿地に自生しているが少ない。
"	イノハシキツナギサ	A4の川岸に見られるが少ない。
"	アキタブキ	A3の堤防上に自生するがすくない。
"	オグルマ	A4, B地域の湿地に自生している。
"	カセンソウ	A4, B地域の湿地に自生している。
"	ヒメムカシヨモギ	A, B各区域の管理道路周辺に多い。
"	ヒメジョオン	A4@に自生しているが少ない。
"	ユウゼンギク	湿地に多く、特にB地域には群落あり。
"	オオアワダチソウ	A4@B地域の湿地に見られ小群落あり。
"	キタキリソウ	A4@B地域の湿地に見られ小群落あり。
"	アキノキリンソウ	B区域の湿地に散見される。
"	ヒドリバナ	B区域の湿地に自生しているが少ない。
"	イガオナモミ	海岸砂丘と川岸に見られる。

キキョウ	サワギキョウ	B5@の湿地内の1ヶ所に見られる。
アカネ	アカネムグラ	A4, B区域の湿地に多く見られる。
"	エゾカワラマツバ	全域に見られるも海岸砂丘には少ない。
"	キバナノカラマツバ	全域に見られるも海岸砂丘には少ない。
アカネ	ネバノヨウバムグラ	B8@の湿地に自生。
オオバコ	ヘラオオバコ	全域に見られる多い。
"	オオバコ	A4の管理道路上に自生するが少ない。
ゴマノハグサ	ウンラン	海側と中央部の砂丘に多い。
ナシ	オオマルバノホロシ	B5区域の湿地に見られるも少ない。
シソ	シロネ	B8, B9の区域に見られる。
"	エゾシロネ	A4, B区域の湿地に見られる。
"	ヒメシロネ	A4, B区域の湿地に見られる。
"	エゾイヌゴマ	B区域の湿地に散見される。
"	ナミキソウ	B区域の湿地に見られる。
"	エゾナミキソウ	B区域の湿地に見られる。
ヒルガオ	ハマヒルガオ	全域に自生するも海岸砂丘と川岸に多い。
リンドウ	エゾリンドウ	B区域の湿地2ヶ所に見られる。
サクラソウ	クサレダマ	B区域の湿地に散見される。
セリ	オオチドメ	B区域の湿地に多く見られ、A4@にも自生。
"	ドクゼリ	B5区域に見られる。
"	ハマボウフウ	A, B, C区域の海岸砂丘の最古種で大群落をなす。
アリノトウグサ	アリノトウグサ	B区域の湿地に多くみられる。
アカバナ	オオマツヨイグサ	川岸の管理道路周辺に多く見られる。
"	メマツヨイグサ	川岸の管理道路周辺に多く見られる。
"	エゾミソハギ	A, B, C区域の湿地に散見される。
ミソハギ	イソスミレ	全域に見られるもA区域中央部より川岸側に群落。
スミレ	イズトギリ	B8区域に自生するも少ない。
オトギリソウ	オトギリソウ	B8区域に自生するも少ない。
"	オトギリソウ	B8区域に自生するも少ない。
ブドウ	ノブドウ	A4, B4区域にみられるが少ない。
マメ	メドハギ	全域に見られるも中央部より川岸側に多い。
"	ミヤコグサ	B区域の中央部より管理道路の間に散見される。
"	エゾレンリソウ	A4, B区域の湿地に見られる。

マ	メ	ハマエンドウ	海側及び中央部の砂丘に多く見られ、群落もある。
"	"	ムラサキツメクサ	川岸管理道路周辺に多い。
"	"	シロツメクサ	川岸管理道路周辺に多い。
バ	ラ	オニシモツケ	A4の湿地に見られるが少ない。
"	"	ナガボノシロワレモコウ	B地区の湿地に多く見られる。
"	"	エノミツモトソウ	A4の管理道路上に見られる。
モウセンゴケ	モウセンゴケ		B8の区域に2所見られる。
アブラナ	ハマハタザオ		湿地をのぞく全域に自生、砂丘部に群落あり。
"	ハルオキヤマゴロシ		A4の川岸にみられるが少ない。
キンボウゲ	アキカラマツ		B区域の道路沿いの湿地に見られる。
スイレン	ヒツジグサ		B8@の沼地に自生している。
ナデシコ	カワラナデシコ		B4区域に散見される。
"	ムシトリナデシコ		A区域の川岸に自生するが少ない。
"	オオヤマフスマ		B区域の湿地に多く見られる。
"	ハコベ		A3区域の堤防にみられるが少ない。
アカザ	オカヒジキ		海岸砂原に見られる。大株もある。
"	シロザ		A4の管理道路上に自生するが少ない。
タデ	ヒメスイバ		湿地を除く全域に散見される。
"	エゾノギシギシ		川岸の管理道路上に見られるが少ない。
"	ハイミチヤナギ		川岸の管理道路上に見られるが少ない。
"	サナエタデ		B9の区域に見られる。
"	イヌタデ		川岸の管理道路上に見られるが少ない。
"	オオイトドリ		A4の湿地に自生するが少ない。
ラン	ネジバナ		A B C各区域の中央部より川岸に散見される。
アヤメ	ノハナショウブ		B区域の湿地に群落あり。
"	キシヨウブ		A4、B5の湿地に見られる。
ユリ	オニユリ		A4、B区域の湿地に散見される。
"	タチギボシ		B区域の湿地に見られ1ヶ所群落あり。
イグサ	イ		全域の湿地・低地に見られ群落あり。
"	イヌイ		B区域の湿地に多く見られる。
"	クサイ		B区域の湿地に多く見られる。

イグサ	スズメノヤリ	海側を除き全域に多くみられる。
カヤツリグサ	フトイ	B8@の沼地に自生している。
"	アブラガヤ	B区域の湿地に散見される。
"	コウボウムギ	全域に見られるも海側に大群落をなしている。
"	ヒカゲスゲ	全域に見られ、A区域の中央部に多い。
"	チャシバ	湿地を除いたほぼ全域に見られる。
"	コウホウシバ	全域に見られ、A4の川岸に群落がある。
"	ヤマメスゲ	B区域の湿地に多く見られる。
"	ゴウソ	B区域の湿地に散見される。
イネ	ハマニンニク	全域の海側、川岸に多く群落をなしている。
"	ウシノケグサ	A区域の堤防沿いに多い。
"	カモガヤ	全域に見られ道路周辺に多く砂丘部にも進入。
"	スズメノカタビラ	A区域の管理道路上にみられる。
"	ナガハグサ	海側と湿地を除き砂丘部に進入している。
"	ヌマガヤ	B区域の湿地に見られる。
"	ヨシ	川岸に多く、群落をなしている。
"	コヌカグサ	道路周辺に多いが、砂丘にも進入している。
"	エゾヌカボ	A区域の川側に見られる。
"	スズメノテッポウ	A区域の中央部に散見される。
"	イワノガリヤス	全域に見られるも川岸側に多い。占拠となっている
"	ヤマアラウ	全域に見られるも川岸側に多い。
"	タイヌビエ	A4の管理道路に見られる。
"	キンエノコロ	A区域の管理道路上にみられる。
イネ	エノコログサ	A区域の管理道路上にみられる。
"	アキメヒシバ	川岸、管理道路上に見られる。
"	オギ	A4およびB区域の湿地部に見られる。
"	ススキ	全域に自生B C区域の中央部の低占拠となっている
トクサ	スギナ	川岸管理道路上に多い。
"	トクサ	A4区域に自生している。
ハナワラビ	フユノハナワラビ	B区域中央部より川岸に見られる。
オシダ	コウヤワラビ	B区域の湿地に多く見られる。

石狩川河口地域域植物調査の概況

調査員 阿部 義孝

オシダ	ヒメシダ	B区域の湿地に多く、群落を成している。
ミズゴケ	ミズゴケ類	B区域の湿地に多く見られる。
スギゴケ	スギゴケ類	全域に見られるも乾燥地に多く見られる。
ハナゴケ	ハナゴケ	全域に見られるもB区域の乾燥地に多く見られる。

木 木

科 名	植 物 名	備 考
スイカズラ	キンギンボク	A4⑥とB9④に見られるが少ない。
グミ	アキグミ	A区域に自生、灯台周辺に多い。
ブドウ	ヤマブドウ	A3、B4区域にみられるが少ない。
ニシキギ	ツルウメモドキ	B4区域の砂丘部に見られる。
マメ	ニセアカシヤ	灯台周辺に多く群落をなしている。
"	イタチハギ	B5③の湿地に2株見られる。
バラ	ハマナス	湿地部を除き自生、砂丘部では大群落をなす。
"	ナワシロイチゴ	A4の湿地に自生するも少ない。
カバノキ	ケヤマハンノキ	B・C区域の湿地に見られる。
"	シラカンバ	B区域の湿地に見られる。
ヤナギ	イヌコリヤナギ	全域の乾地・湿地に多く自生している。
"	エゾノカワヤナギ	全域の乾地・湿地に多く自生している。
"	ボブライ	B4に群落、A3④にも見られる。
"	エゾヤマナラシ	B9区域に見られる。
クルミ	オニグルミ	A4の川岸に見られるが幼木である。

今回の石狩川河口地域の植物調査に当たっては調査の便宜上、全地域をA、B、Cの3地区に分割、更にA地域をA1よりA8の8区に、B地域をB1よりB9の9区に、C地域をC1よりC3の3区に区分し、各区を更に1区画おおよそ100メートル方形に分け、それぞれの⑥とした。なお、A1、A2、A3、A4の区画については観測値を省略してメジャーのみによったため乱画となっている。

調査期間は1989年6月より9月までの約4か月である。

調査結果は別表のとおりであるが、総括としては砂丘の中央部側より海辺砂原の間にはハマボウフウ、ハマナス、テンキグサの大群落がありハマエンドウ、ハマニガナ、ハマヒルガオ、ウンラン、コウボウムギ等の海辺植物が全域に多く見られた。

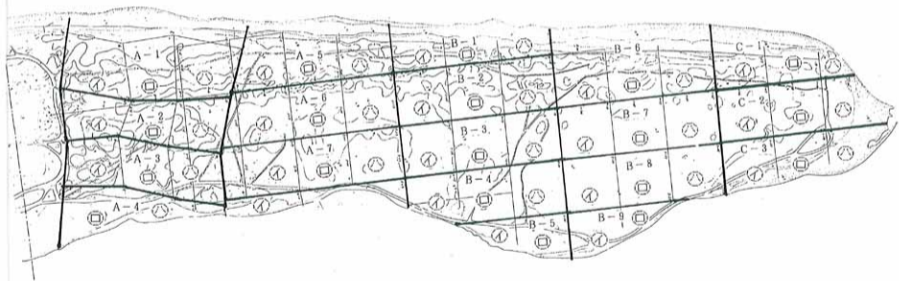
川岸側の平坦な区域にはイソシメレの群落も見られる。B区域の低地は広い湿地になっていて、湿生植物が多いが、エゾリンドウ、サワギキョウ、モウセンゴケ等もみられノハナショウブの群落もある。

B区域の中央部砂丘より河口にかけてはスキの自生が多く、この区域の優占種になっている。川岸側入り口側の管理道路上とその周辺にはイネ科植物、帰化植物、雑草と称される植物多くみられた。

今回調査の河口地区は、ともすれば海浜植物の群生地と思われ勝ちであるが、低地の湿地部には湿生植物の自生も多いし、四季をつうじて数多くの鳥類の渡来もあり、冬季にはアザラシの群れも見られる。小、中、高校生、一般成人向けの野外理科観察学習の場としておおいに役立たせてほしいものと思う。同時にこの自然を後世に残すべく一層の保護対策の強化を望まずにはいられない。



日 本 海



石 狩 川

石狩川河口地域各区における植物
調査区域A-1

科名	植物名	備考	
キ	ク	ハマニガナ	全域に自生
ゴマノハグサ	ウ	ンラン	"
ヒルガオ	ハ	マヒルガオ	全域に群生
セ	オ	ハマボウフウ	数カ所に群生
アカバナ	メ	マツヨイグサ	道路側に自生
マ	メ	ハマエンドウ	数カ所に群生
"	メ	ムラサキツメクサ	道路側に1株
アブラナ	ハ	マハタザオ	数カ所に群生
ア	カ	ザオカヒジキ	海沿いに自生
タ	デ	ヒメスイバ	数カ所に自生
カヤツリグサ	コ	ウボウムギ	全域に自生
"	ヒ	カゲスゲ	1カ所に群生
"	コ	ウボウシバ	全域に散見
イ	ネ	カモガヤ	全域に散見
"	ナ	ガハグサ	"
"	ス	ス	2カ所に群生
"	テ	ンキグサ	全域に自生

調査区域A-1 木 木

科名	植物名	備考	
バ	ラ	ハマナス	数カ所に群生

A1区域は高浜植物保護区域の海岸入り口に位置し、海岸砂原と砂丘よりなり、植相は海岸砂原ではオカヒジキ・テンキグサ・コウボウムギ等が見られる。砂丘には全域にわたってハマボウフウの大群落がありテンキグサ・ハマヒルガオ・コウボウムギと共にこの丘の優占種となっている。ウラン・ハマヒルガオ・ハマニガナも多く共生している。砂丘の中央部にはハマナス、ハマハタザオの群落がありウラン、テンキグサ、カモガヤ等が共生す

る純高浜植物自生地帯であり、ハマボウフウの開花期の景観が素晴らしい区域である。

調査区域A-2

科名	植物名	備考	
キ	ク	ハマニガナ	
"	タ	ンボボモドキ	15本ある
ア	カ	ネ	エゾカワラマツバ
"	キ	バナノカワラマツバ	
オ	オ	バ	コ
ゴマノハグサ	ウ	ンラン	
ヒルガオ	ハ	マヒルガオ	
セ	レ	イソスミレ	13株あり
アカバナ	メ	マツヨイグサ	
マ	メ	メドハギ	大群落あり
"	メ	ハマエンドウ	
アブラナ	ハ	マハタザオ	
タ	デ	ヒメスイバ	
イ	グ	サ	ズメノヤリ
"	イ	ズ	メ
カヤツリグサ	コ	ウボウムギ	凹部に群生
"	ヒ	カゲスゲ	
"	コ	ウボウシバ	
イ	ネ	ウシノケグサ	
"	カ	モガヤ	2カ所に群生
"	ナ	ガハグサ	1カ所に群生
"	ス	ス	数カ所に自生
"	テ	ンキグサ	
"	ス	ズメノテッポウ	

調査区域A-2 木 木

科名	植物名	備考	
グ	ミ	アキグミ	1株
マ	メ	ニセアカシヤ	
バ	ラ	ハマナス	

この区域は高浜植物保護区域の中央部の入り口に位置し、起伏の多い地形を成している。植相は、ハマナスの大群落がありハマエンドウと共生し共にこの区域の優占種となっている。テンキグサの群落もあり、低地にはイグサ属の群落も見られ、ヒカゲスゲも多いし、イソスミレも見られる。6月中旬より7月にかけてハマナス、ハマエンドウの開花期の景観が特に素晴らしい区域である。

調査区域A-3

科名	植物名	備考	
キ	ク	ノゲシ	道路沿いに自生
"	ハ	マニガナ	
"	タ	ンボボモドキ	道路沿いに多い
"	セ	イヨウタンポポ	堤防に自生
ア	カ	ネ	エゾカワラマツバ
"	キ	バナノカワラマツバ	
オ	オ	バ	コ
ゴマノハグサ	ウ	ンラン	
ヒルガオ	ハ	マヒルガオ	
セ	レ	イソスミレ	少ない
アカバナ	メ	マツヨイグサ	群生あり
マ	メ	メドハギ	
"	メ	ハマエンドウ	

マ	メ	ムラサキツメクサ	堤防沿道に多い
ハ	シ	シロツメクサ	
ア	ブ	ハマハタザオ	
ナ	デ	ハココベ	堤防に自生
タ	サ	ヒメスイバ	全域に散見
イ	グ	スズメノヤリ	
カ	ヤ	コウボウムギ	
ハ	カ	ヒカゲスゲ	
ハ	コ	コウボウシバ	
イ	ネ	ウシノケグサ	
ハ	カ	カモガヤ	堤防沿いに多い
ハ	ナ	ナガハグサ	道路沿いに多い
ハ	ス	ススキ	
ハ	テ	テンキグサ	散見
ハ	ス	スズメノテッポウ	
ス	キ	スギボケ	類

調査区域A-3 木 本

科	名	植 物 名	備 考
グ	ミ	アキグミ	
ブ	ド	ウキマブドウ	
マ	メ	ニセアカシヤ	群生あり
バ	ラ	ハマナス	
ハ	ナ	ナワシロイチゴ	
ヤ	ナ	ギボウ	
ハ	ナ	エゾノカワヤナギ	

A3区域は砂丘で起伏が多く石狩川左岸堤防の終点になっており
灯台があって景観の優れたところである。灯台付近にはニセアカシ
ヤの群落があり、ボブラが叢生している。又、アキグミも見られ⑥

⑥区域にはハマナス、コウボウムギの群落があり優占種となっており、イソスミレが見られススキも多い。堤防道路とその周辺にはウシシノケグサ、カモガヤ等のイネ科植物が多い。

調査区域A-4

科	名	植 物 名	備 考
キ	ク	ハチジョウナ	
ハ	マ	ハマニガナ	
ヤ	ナ	ヤナギタンポポ	
ア	キ	アキノグシ	
ト	グ	トグチシヤ	
コ	ウ	コウソリナ	
タ	ン	タンポポモドキ	群生あり
セ	イ	セイヨウタンポポ	
エ	ゾ	エゾヨモギ	
ノ	ボ	ノボロギク	
セ	イ	セイヨウノギリソウ	
ア	メ	アメリカセンダングサ	
ア	キ	アキタブキ	堤防に自生
オ	グ	オグルマ	
カ	セ	カセンソウ	
ヒ	メ	ヒメムカシヨモギ	
ヒ	メ	ヒメジョオン	
ユ	ウ	ユウゼンキク	多い
オ	オ	オオアワダチソウ	多い
セ	イ	セイトクアワダチソウ	
イ	ガ	イガオナモミ	
ア	カ	アカネムグラ	
キ	バ	キバナノカワラマツバ	

ア	カ	ネ	エゾカワラマツバ	
オ	オ	バ	ヘラオオバコ	
オ	オ	バ	オオバコ	道路に自生
ゴ	マ	ノ	ゴマノハグサ	
シ	ソ	ウ	シロネ	少ない
ハ	シ	ソ	エゾイヌゴマ	少ない
ヒ	ル	ガ	オハヒルガオ	川岸に自生
セ	リ	オ	オオチドメ	
ハ	マ	ボ	ハボウフウ	少ない
ア	カ	バ	ナオオマツヨイグサ	
メ	マ	ツ	ヨイグサ	
ミ	ソ	ハ	ギエゾミソハギ	
ス	ミ	レ	イソスミレ	少ない
ブ	ト	ウ	ノブドウ	
マ	マ	メ	メドハギ	
ハ	マ	エ	ハマエンドウ	
エ	ゾ	ノ	レンリソウ	散見
ム	ラ	サ	キツメクサ	道路沿いに多い
シ	ロ	ツ	メクサ	
オ	ニ	シ	モツケ	
ハ	ハ	マ	ハタザオ	
エ	ゾ	ミ	ツモトソウ	
ア	ブ	ラ	ナ	川岸に多い
ハ	ル	ザ	キヤマガラシ	少ない
ナ	デ	シ	コムシトリナデシコ	1カ所に自生
オ	オ	ヤ	マフスマ	
ア	カ	ザ	シロザ	
タ	デ	ヒ	メスイバ	
エ	ゾ	ノ	ギシギシ	
イ	ヌ	タ	デ	道路に自生
オ	オ	イ	タドリ	
ハ	イ	ミ	チヤナギ	道路に自生

ラ	ン	ネ	シ	バ	ナ	多	
ユ	リ	オ	ニ	ユ	リ		い
イ	グ	サ	イ	ズ	メ	ノ	ヤ
カ	ヤ	ツ	リ	グ	サ	コ	ウ
ウ	ム	ギ	ヒ	カ	ゲ	ス	ゲ
コ	ウ	ボ	ウ	シ	バ	コ	ウ
ウ	シ	ノ	ケ	グ	サ	イ	ネ
カ	モ	ガ	ヤ	シ	群	生	あ
ナ	ガ	ハ	グ	サ	群	生	あ
ズ	メ	ノ	カ	タ	ビ	ラ	
ヨ	シ	群	生	あ	り		
イ	ワ	ノ	ガ	リ	ヤ	ス	
タ	イ	ヌ	ビ	エ	ヤ	マ	
キ	ン	エ	ノ	コ	ロ	グ	
エ	ノ	コ	ロ	グ	サ		
ア	キ	メ	ヒ	シ	バ	ギ	
オ	ス	ス	キ	ナ	川	沿	い
テ	ン	キ	グ	サ	類		
ト	ク	サ	ス	ギ	ト	ク	サ
ス	ギ	ゴ	ケ	ス	ギ	ゴ	ケ

調査区域A-4 木 本

科	名	植	物	名	備	考
ス	イ	カ	ズ	ラ	キ	ン
グ	ミ	ア	キ	グ	ミ	

ブ	ド	ウ	ヤ	マ	ブ	ド	ウ
バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス		
カ	バ	ノ	キ	ケ	ヤ	ハ	ン
カ	ナ	ギ	ボ	フ	ラ		
エ	ゾ	ノ	カ	ワ	ヤ	ナ	ギ
イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ	ギ	
ク	ル	ミ	オ	ニ	グ	ル	ミ

A 4 区域は川岸側の管理道路入口にありたり、川岸と湿地及び道路と堤防間の区域よりなり、道路と堤防間ではハマボウフウ、メドハギ、テンキグサ等が見られるも自生植物は少ない。湿地ではヨシ、スキキが多く優占種となっており、オグルマ、カセンソウ、ユウゼンギク、アカネムグラ、イワノガリヤス等も多く混生している。

川岸は、ヨシ、テンキグサが多くコウボウシバの大群落もあり共に優占種となっている。また、キク科植物が多く見られ乾燥地にはネジバナ、ハマハタザオも多い。

A 4 区域の川岸砂丘にはハマナス、イソスミレの群落もある。道路上及びその周辺にはイネ科植物や普通「雑草」と称されるものも多く見られる。

調査区域A-5

科	名	植	物	名	備	考
キ	ク	ハ	マ	ニ	ガ	ナ
ア	カ	ネ	エ	ゾ	カ	ワ
オ	オ	ハ	コ	ウ	ン	ラ
ヒ	ル	ガ	オ	ハ	マ	ヒ
セ						

ス	ミ	レ	イ	ソ	ス	ミ	レ	直	径	60	cm	3	株
マ	メ	ハ	マ	エ	ン	ド	ウ	1	カ	所	に	群	生
ア	ブ	ラ	ナ	ハ	マ	ハ	タ	ザ	オ				
ア	カ	ザ	オ	カ	ヒ	ジ	キ						
タ		デ	ヒ	メ	ス	イ	バ						
カ	ヤ	ツ	リ	グ	サ	コ	ウ	ボ	ウ	ム	ギ	海	沿
ヒ	カ	ゲ	ス	ゲ								い	に
イ		ネ	カ	モ	ガ	キ	ヤ						
ナ	ガ	ハ	グ	サ									
ス	ス	キ											
テ	ン	キ	グ	サ								海	沿
												い	に

調査区域A-5 木 本

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス	ナ
---	---	---	---	---	---	---

A 5 の区域は落葉より海岸砂原及び砂丘よりなり、A 1 区域同様純海浜植物の自生地帯である。海岸砂原にはオカヒジキ、テンキグサ、ハマヒルガオ、ハマニガナが見られる。砂丘にはハマボウフウ、テンキグサ、コウボウムギ、が多く優占種となっている。ウンラン、ハマニガナ、ハマヒルガオも多く共生している。砂丘中央部にはハマナスの小群落がありハマハタザオ、ウンラン、テンキグサ多く見られる。

※これまでにテンキグサとあるのは、ハマニククの別名である。

調査区域A-6

科	名	植	物	名	備	考
キ	ク	ハ	マ	ニ	ガ	ナ
タ	ン	ボ	ボ	モ	ド	キ

オオバコ	ヘラオオバコ	
ゴマノハグサ	ウンラン	
ヒルガオ	ハマヒルガオ	群生箇所あり
セカバナ	ハマボウフウ	少ない
アオマツヨイグサ	オオマツヨイグサ	
スミレ	イソスミレ	
マメ	ハマエンドウ	少ない
メドハギ	メドハギ	10m × 10m 自生
アブラナ	ハマハタザオ	
タデ	ヒメスイバ	
イグサ	イグサ	凹地に多い
スズメノヤリ	スズメノヤリ	
コウボウムギ	コウボウムギ	
ヒカゲスゲ	ヒカゲスゲ	
コウボウシバ	コウボウシバ	多い
イネ	カモガヤ	丘陵部に多い
ナガハグサ	ナガハグサ	
ススキ	ススキ	多い
テンキグサ	テンキグサ	群生

調査区域A-6 木 木

バ	ラ	ハマナス	群生
---	---	------	----

A6の区域は中央部の砂丘よりなり、地形は起伏が多い。A2区域と続き開花期の景観が素晴らしい。

ハマナスの群落が生じ、ハマボウフウ、テンキグサ共にこの区域の優占種となっている。ウンラン、ハマエンドウも多くイソスミレも見られる。ハマナス群落の一部にはカモガヤ、ナガハグサ等のイネ科の植物の混入があり群落をなしているところもある。

調査区域A-7

科	名	植物名	備考
キ	ク	ハマニガナ	
キ	ク	タンポポモドキ	多い
ア	カ	ネ	エゾカワラマツバ
キ	ク	ネバノカワラマツバ	
オ	オ	バコ	オオバコ
オ	オ	バコ	ヘラオオバコ
ゴ	マ	ノハグサ	ウンラン
ヒ	ル	ガオ	ハマヒルガオ
セ	セ	リ	ハマボウフウ
ア	カ	バ	ナ
ス	ミ	レ	イソスミレ
マ	メ		ハマエンドウ
メ	メ		メドハギ
シ	ロ	ツメクサ	
ア	ブ	ラ	ナ
タ	デ	シ	コ
イ	グ	サ	スズメノヤリ
カ	ヤ	ツリ	グサ
コ	ウ	ボウ	ムギ
ヒ	カ	ゲ	スゲ
コ	ウ	ボウ	シバ
イ	ネ		カモガヤ
ナ	ガ	ハ	グサ
ス	ズ	メ	ノテッポウ
ス	ス		スキ
テ	ン	キ	グサ
ス	ギ	ゴ	ケ
ス	ギ	ゴ	ケ
ス	ギ	ゴ	ケ

調査区域A-7 木 木

バ	ラ	ハマナス	大群落あり
---	---	------	-------

A7の区域は川岸側の砂丘よりなり多小起伏あるも全般に平坦な地形をしている。川側は管理道路に面している。

全般にわたってハマナスの大群落がありハマエンドウと共生して優占種となっている。日本海側の北限自生地と言われているイソスミレの群生地がある。又、カワラマツバ、ハマハタザオの群落も見られる。この区域は学術上貴重と思われてをり、イソスミレの群生地があり、ハマナスの大群落もあるので特に海浜植物保護区域に編入させて大切に保護すべき区域である。又、開花期の景観が素晴らしい区域でもある。

調査区域A-8

科	名	植物名	備考
キ	ク	ハマニガナ	
キ	ク	タンポポモドキ	多い
ア	カ	ネ	エゾカワラマツバ
キ	ク	ネバノカワラマツバ	
オ	オ	バコ	ヘラオオバコ
オ	オ	バコ	オオバコ
ゴ	マ	ノハグサ	ウンラン
ヒ	ル	ガオ	ハマヒルガオ
セ	セ	リ	ハマボウフウ
ア	カ	バ	ナ
オ	オ	マ	ツヨイグサ
マ	メ		マツヨイグサ
マ	メ		ハマエンドウ
シ	ロ	ツ	メクサ
ア	ブ	ラ	ナ
タ	デ	ヒ	メスイバ

イ	グ	サ	ス	ズ	メ	ノ	ヤ	リ	
カ	ヤ	ツ	ク	ウ	ボ	ウ	ム	ギ	
"	"	"	ヒ	カ	ゲ	ス	グ	グ	
"	"	"	コ	ウ	ボ	ウ	シ	バ	
イ	"	ネ	カ	モ	ガ	ヤ	ヤ		
"	"	"	ナ	ガ	ハ	グ	サ		
"	"	"	ス	ス	.	キ	シ		
"	"	"	ヨ						
"	"	"	テ	ン	キ	グ	サ		川岸に多い

調査区域A-8 木 木

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス
ヤ	ナ	ギ	エ	ゾ	ノ

この区域は一部管理道路をはさんで川岸砂丘部と川岸よりなっている。川岸にはヨシ、ススキ、テンキグサが多く優占種となっている。ハマナス、ウンラン、コウボウムギ等も共生し、道路周辺にはイネ科植物が多く見られる。

調査区域B-1

科	名	植 物 名	備 考
キ	ク	ハ マ ニ ガ ナ	全域に自生
ゴ	マ	ウ ン ラ ン	全域に自生
ヒ	ル	ハ マ ヒ ル ガ オ	海沿いに多い
セ	ル	ハ マ ボ ウ フ	群 生
マ	メ	ハ マ エ ン ド ウ	道路沿いに多い
ア	ブ	ハ マ ハ タ ザ オ	群 生
タ	デ	ヒ メ ス イ バ	

カ	ヤ	ツ	リ	グ	サ	コ	ウ	ボ	ウ	ム	ギ	多	い
"	"	"	"	"	"	ヒ	カ	ゲ	ス	グ			
"	"	"	"	"	"	コ	ウ	ボ	ウ	シ	バ		
イ	"	ネ	ヨ			シ						海沿いに1本	
"	"	"	テ	ン	キ	グ	サ					多	い

調査区域B-1 木 木

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス
ヤ	ナ	ギ	エ	ゾ	ノ

- 注 1. ハマボウフウ、テンキグサ、コウボウムギ、ハマエンドウが優生、海浜植物の自生密度が高い。
2. ナガハグサ、カモガヤの自生なし。

この区域は、渚線より海岸砂原と砂丘よりなり純海浜植物地帯で、海岸砂原にはテンキグサ、ハマニガナが見られ、オカヒジキの大株が10株以上見られる。

砂丘にはテンキグサ、コウボウムギ、ハマボウフウ、ハマニガナ、ウンラン、ハマエンドウが多く見られ、テンキグサ、ハマボウフウ、コウボウムギが優占種となっている。

中央部にはハマハタザオの大群落とハマナスの小群落が点在している。特に帰化植物の自生が見られない区域でもあり、海浜植物の自生密度の濃い区域である。

調査区域B-2

科	名	植 物 名	備 考
キ	ク	ハ マ ニ ガ ナ	
"	"	タ ン ポ モ ド キ	少 ない

ア	カ	ネ	エ	ゾ	カ	ワ	ラ	マ	ツ	バ	群	生	あ	り
"	"	"	キ	バ	ナ	ノ	カ	ワ	ラ	マ	ツ	バ		
オ	オ	バ	ヘ	ラ	オ	オ	バ	コ						
ゴ	マ	ノ	ウ	ン	ラ	ン								
ア	カ	バ	オ	オ	マ	ツ	ヨ	イ	グ	サ	少	な	い	
ス	ミ	レ	イ	ソ	ス	ミ	レ				④	に	多	い
マ	メ		ハ	マ	エ	ン	ド	ウ						
セ	リ		ハ	マ	ボ	ウ	フ	ウ			全	域	に	群
ア	ブ	ラ	ハ	マ	ハ	タ	ザ	オ			多			い
タ	デ		ヒ	メ	ス	イ	バ							
イ	グ	サ	ス	ズ	メ	ノ	ヤ	リ						
"	"	"	イ											
カ	ヤ	ツ	ク	ウ	ボ	ウ	ム	ギ						
"	"	"	ヒ	カ	ゲ	ス	グ							
"	"	"	コ	ウ	ボ	ウ	シ	バ						
イ	ネ		ナ	ガ	ハ	グ	サ				④	に	1	カ
"	"	"	ヨ											
"	"	"	コ	ノ	カ	グ	サ							
"	"	"	ス	ス	キ						④	に	多	い
"	"	"	テ	ン	キ	グ	サ							

調査区域B-2 木 木

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス	全	域	に	群	生
ヤ	ナ	ギ	イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ	ギ	1
										カ
										所
										自
										生
										5mX5m
										区
										域
										に
										多
										い

B2区域は砂丘で起伏の多い地形をなしておりハマナス群落が発達し、開花期の最観の素晴らしい区域であり、イソミレも見られる。ハマナスは砂丘の優占種となっている。

中央部の低地にはススキが多く低地の優占種となっており、ハマナス、コウボウムギも混生している。ハマエンドウ、ハマボウフウ、テンキグサ等は少ない。

調査区域B-3

科	名	植 物 名	備 考
キ	ク	コウゾリナ	
"	"	タンポポモドキ	
"	"	カセンソウ	
"	"	ユウゼンギク	
ア	カ	エソカワラマツバ	
"	"	キバナノカワラマツバ	
オ	オ	ヘラオオバコ	
シ	ソ	ヒメシロネ	
ヒ	ル	ハマヒルガオ	
セ	オ	ハマボウフウ	
ア	リ	アリノトウグサ	
ア	カ	オオマツヨイグサ	
ス	ミ	イソスミレ	
マ	メ	メドハギ	
"	"	ミヤコグサ	少 ない
"	"	ハマエンドウ	
"	"	ムラサキツメクサ	
"	"	シロツメクサ	
バ	ラ	ナガバノシロツメクサ	
ア	ブ	ハマハタザオ	少 ない
ナ	デ	オオヤマフスマ	
タ	デ	ヒメスイバ	
イ	グ	イ	
"	"	イズメノヤリ	
カ	ヤ	コウボウムギ	
"	"	ヒカゲスゲ	
"	"	コウボウシバ	
イ	ネ	ウシノケグサ	
"	"	カモガヤ	

"	ナ	ガ	ハ	グ	サ	
"	ヨ				シ	低地に多い
"	コ	ヌ	カ	グ	サ	
"	ス				ス	多 ない
"	テ	ン	キ	グ	サ	少 ない
オ	シ	ダ	ヒ	メ	シ	グ
ス	ギ	ゴ	ケ	ス	ギ	ゴ
						類

調査区域B-3 木 本

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス	群 生
カ	バ	ノ	ケ	ヤマ	ハン	ノ
ヤ	ナ	ギ	イ	ヌ	コ	リ
"	"	"	ボ	ブ	ラ	
ブ	ド	ウ	ヤ	マ	ブ	ド
						ウ

この区域は中央部の砂丘と湿地とによりなっている。砂丘にはハマナス、コウボウムギの群落があり優占種となっている。他にカワラマツバ、スギゴケ類、等も多くみられる。

B3④の区域にはハマヒルガオ、ハマハタザオの群落もあり共生している。

低地にはススキが多く優占種となっている。他にヨシ、イヌコリヤナギの群落もありB2区域同様景観のよい区域である。

調査区域B-4

科	名	植 物 名	備 考
キ	ク	ハマニガナ	散 見
"	"	コウゾリナ	
"	"	ヤナギタンポポ	
"	"	タンポポモドキ	

"		セイヨウタンポポ	散 見
"		ユウゼンギク	群 生
"		アキノキリンソウ	
"		ノコギリソウ	
"		カセンソウ	
"		オグルマ	
"		ヒメムカシヨモギ	
ア	カ	アカネムグラ	
"	"	エゾカワラマツバ	
"	"	キバナノカワラマツバ	
オ	オ	ヘラオオバコ	
ゴ	マ	ノハグサ	
"	"	ソ	ウ
"	"	ヒメシロネ	
"	"	ナミキソウ	
ヒ	ル	ガ	オ
サ	ク	ラ	ソ
セ	リ		
"	"	ハマボウフウ	
ア	リ	ノ	ト
ア	カ	バ	ナ
"	"	メ	マ
ス	ミ	レ	
ブ	ド	ウ	
マ	メ	メ	ド
"	マ	メ	ド
"	"	ミ	ヤ
"	"	ハ	マ
"	"	ム	ラ
"	"	シ	ロ
バ	ラ	ナ	ガ
ア	ブ	ラ	ナ
ナ	デ	シ	コ

道路沿いに多い

多 ない

散 見

少 ない

ナ	デ	シ	コ	オ	オ	ヤ	マ	フ	ス	マ	
ア	カ	ザ		シ	ロ					ザ	
ク				ヒ	メ	ス	イ			バ	
ラ				ネ	ジ	バ				ナ	
ア	ヤ			ノ	ハ	ナ	シ	ヨ	ウ	ブ	
ユ				タ	チ	ギ				ボ	シ
イ	グ			イ							
〃				イ	ヌ					イ	
〃				ス	ズ	メ	ノ			ヤ	リ
カ	ヤ	ツ	リ	ク	サ					ギ	少
〃				コ	ウ	ボ	ウ			ム	ギ
〃				ヒ	カ	グ				ス	ゲ
〃				コ	ウ	ボ	ウ			シ	バ
〃				ヤ	ラ	メ	ス			グ	少
イ				ウ	シ	ノ	ケ			グ	サ
〃				カ	モ	ガ				ヤ	道
〃				ナ	ガ	ハ	グ			サ	路
〃				ヨ						シ	沿
〃				コ	ヌ	カ	グ			サ	い
〃				ア	キ	メ	ヒ			シ	多
〃				オ						ギ	い
〃				ス						キ	多
〃				テ	ン	キ	グ			サ	い
ト	ク			ス		ギ				ナ	
オ	シ			ヒ	メ		シ			ダ	
ミ	ズ	ゴ	ケ	ミ	ズ	ゴ	ケ				類
ス	ギ	ゴ	ケ	ス	ギ	ゴ	ケ				類
ハ	ナ	ゴ	ケ	ハ	ナ	ゴ	ケ				

調査区域B-4 木 本

科	名	植 物 名	備 考								
ブ	ド	ウ	ヤ	マ	ブ	ド	ウ				
ニ	シ	キ	ギ	ツ	ル	ウ	メ	モ	ド	キ	
バ				ハ	マ	ナ	ス				群
カ	バ	ノ	キ	ケ	ヤ	マ	ハ	ン	ノ	キ	生
〃				シ	ラ	カ	ン	バ			
ヤ	ナ	ギ		ボ	ブ	ラ					群
〃				エ	ソ	ノ	カ	ワ	ヤ	ナ	生
〃				イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ	ギ	多

B4の区域は一部川岸と砂丘及び湿地よりなり湿生植物の多く見られる区域であり区域の中部に海側に旧道が通っている。

管理道路の中央部砂丘にボブラの群落があるも木丈が低い。ヤマブドウ、ツルウメモドキも共生している。砂丘にはハマナス、ススキが多くハマヒルガオ、コウボウムギ、スギゴケ類、ハナゴケ等が見られる。湿地にはススキ、ユウゼンギクが多く優占種となっているがオオチドメ、アカネムグラ、ナガホノシロワレモコウ、ミズゴケ、イ、アリノトウグサ、ヒメシダ等の湿生植物も多く、ミヤコグサも散見され、カワラナデシコは、この区域にのみ見られる。木本ではエノコカワヤナギ、イヌコリヤナギが多い。

川岸は約100mにわたり流れによって浸食されているが、これら湿生植物の自生地は、この区域特有のものであることから、なるべく保護強化されるべきと思われる。開花期の景観の素晴らしい区域である。

調査区域B-5

科	名	植 物 名	備 考								
キ	ク	ノ	ゲ	シ	道	路	沿	い	に	自	生
〃		ハ	マ	ニ	ガ	ナ					

キ	ク	ヤ	ナ	キ	タ	ン	ボ	ボ			
〃		コ	ウ	ゾ	リ	ナ					
〃		タ	ン	ボ	ボ	モ	ド	キ			少
〃		ハ	マ	オ	ト	コ	ヨ	モ	ギ		な
〃		エ	ゾ	ヨ	モ	ギ					い
〃		カ	セ	ン	ソ	ウ					
〃		オ	グ	ル	マ						
〃		ユ	ウ	ゼ	ン	ギ	ク				
〃		オ	オ	ア	ワ	ダ	チ	ソ			
〃		セ	イ	タ	カ	ア	ワ	ダ	チ	ソ	
〃		ア	キ	ノ	キ	リ	ン	ソ			
キ	キ	ヨ	ウ	サ	ワ	ギ	キ	ヨ			1
ア	カ	ネ		ア	カ	ネ	ム	グ	ラ		カ
〃				エ	ソ	カ	ウ	ラ	マ	ツ	所
〃				キ	バ	ナ	カ	ワ	ラ	マ	5
オ	オ	バ	コ	ヘ	ラ	オ	オ	バ	コ		本
ゴ	マ	ノ	ハ	グ	サ	ウ	ン	ラ	ン		位
ナ		ス		オ	オ	マ	ル	バ	ノ	ホ	あり
シ		ソ		エ	ゾ	シ	ロ	ネ			
〃				ヒ	メ	シ	ロ	ネ			
〃				エ	ゾ	イ	ヌ	ゴ			
〃				ナ	ミ	キ	ソ	ウ			
ヒ	ル	ガ	オ	ハ	マ	ヒ	ル	ガ	オ		
リ	ン	ド	ウ	エ	ゾ	リ	ン	ド	ウ		①
サ	ク	ラ	ソ	ウ	ク	サ	レ	ダ			2
セ				リ	ド	ク	ゼ	リ			所
ア	カ	バ	ナ	メ	マ	ツ	ヨ	イ	グ	サ	9
マ		メ		メ	ド	ハ	ギ				19
〃				エ	ゾ	ノ	レ	ン	ソ	ウ	本
〃				ム	ラ	サ	キ	ツ	メ	ク	
〃				シ	ロ	ツ	メ	ク	サ		
バ		ラ		ナ	ボ	ノ	シ	ロ	ワ	レ	モ
キン	ボ	ウ	ゲ	ア	キ	カ	ラ	マ	ツ		多

ナ	デ	シ	コ	オ	オ	ヤ	マ	フ	ス	マ
ラ			ン	ネ	ジ	バ	ナ			
ア	ヤ	メ	キ	シ	ヨ	ウ	ブ			
ユ		リ	オ	ニ	ユ	リ				
イ	グ	サ	イ							
"			イ	ヌ	イ					
"			ス	ズ	メ	ノ	ヤ	リ		
カ	ヤ	ツ	リ	ア	ブ	ラ	ガ	ヤ		
"			コ	ウ	ボ	ウ	ム	ギ		
"			ヒ	カ	ゲ	ス	ゲ			
"			コ	ウ	ボ	ウ	シ	バ		川岸に多い
"			セ	ラ	メ	ス	グ			多い
イ		ネ	カ	モ	ガ	ヤ				道路沿いに多い
"			ヨ			シ				川岸に群生
"			コ	ヌ	カ	グ	サ			
"			イ	ワ	ノ	ガ	リ	ヤ		群生あり
"			ヤ	マ	ア	ワ				
"			オ				ギ			
"			ス	ス			キ			
"			テ	ン	キ	グ	サ			
ト	ク	サ	ス	ギ	ナ					
オ	シ	ダ	ヒ	メ	シ	ダ				

調査区域B-5 木 木

科	名	植	物	名	備	考				
マ	メ	イ	タ	チ	ハ	ギ				
バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス					
カ	バ	ノ	キ	ケ	ヤ	マ	ハ	ノ	キ	
ヤ	ナ	ギ	エ	ソ	ノ	カ	ワ	ヤ	ナ	ギ
"			イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ	ギ	

B5の区域は管理道路をはさみ両側に湿地更に川岸よりなっている。川岸にはヨシの群落が発達し優占種となっている。湿地にはヨシ、ススキが多く優占種となっているが、カセンノウナガホノシロワレモコウ、ユウゼンギク、エゾシロネ、エゾレンリソウ、キショウブ、オオチドメ等の湿生植物も多く見られる。沼地周辺には、イワノガリヤス、ヤマメスグの小群落もある。道路周辺には帰化植物が多く見られ、セイタカアワダチソウの小群落もある。

調査区域B-6

科	名	植	物	名	備	考											
キ	ク	ハ	マ	ニ	ガ	ナ				道路沿いに多い							
"		タ	ン	ボ	ボ	モ	ド	キ									
"		イ	ガ	オ	ナ	モ	ミ										
オ	オ	バ	コ	ヘ	ラ	オ	バ	コ									
ゴ	マ	ノ	ハ	グ	サ	ウ	ン	ラ		道路沿いに多い							
ヒ	ル	ガ	オ	ハ	マ	ヒ	ル	ガ	オ	道路沿いに多い							
セ		リ	ハ	マ	ボ	ウ	フ	ウ		濃密に群生							
ア	カ	バ	ナ	オ	オ	マ	ツ	ヨ	イ	グ	サ	少	な	い			
マ		メ	メ	ド	ハ	ギ											
"			ハ	マ	エ	ン	ド	ウ						少	な	い	
ア	ブ	ラ	ナ	ハ	マ	ハ	タ	ザ	オ					群	生	あり	
ア	カ	ザ	オ	カ	ヒ	ジ	キ							0.7X0.55m	の	大	株
タ		デ	ヒ	メ	ス	イ	バ										
イ	グ	サ	ス	ズ	メ	ノ	ヤ	リ									
イ		ネ	カ	モ	ガ	ヤ											
"			ナ	ガ	ハ	グ	サ										
"			ヨ				シ										
"			コ	ヌ	カ	グ	サ										
"			イ	ワ	ノ	ガ	リ	ヤ									

イ	ネ	ス	ス	キ													
"		テ	ン	キ	グ	サ				道路沿いに多い							
カ	ヤ	ツ	リ	グ	サ	コ	ウ	ボ	ウ	ム	ギ						
"			ヒ	カ	ゲ	ス	ゲ										
"			コ	ウ	ボ	ウ	シ	バ									

調査区域B-6 木 木

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス					群生あり
ヤ	ナ	ギ	イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ	ギ	

B6の区域は清線より海岸砂原と砂丘よりなり起伏の多い変化のある地形をしており、海岸砂原には、テンキグサ、コウボウムギ、ハマニガナが多くイガオナモミ、オカヒジキも見られる。砂丘には、テンキグサ、コウボウムギ、ハマボウフウ、ハマナス等が多く共生し、この区域の優占種となっている。

海側砂丘の道路の両側には、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ウンランが多く見られる。中央部の砂丘には、ススキが多くハマハタザオ、ウンラン、ハマナスの群落もある。

調査区域B-7

科	名	植	物	名	備	考												
キ	ク	ヤ	ナ	ギ	タ	ン	ボ	ボ										
"		コ	ウ	ソ	リ	ナ												
"		タ	ン	ボ	ボ	モ	ド	キ										
"		セ	イ	ヨ	ウ	ア	ワ	ダ	チ	ソ	ウ							
"		ウ	ン	ラ	ン													
"		カ	セ	ン	ソ	ウ											多	い
キ	ク	ユ	ウ	ゼ	ン	ギ	ク											
ア	カ	ネ	エ	ゾ	カ	ワ	ラ	マ	ツ	バ								

ア	カ	ネ	キバノカワラマツバ		
オ	オ	バ	コヘラオオバコ		
シ	ル	ガ	ソエソシロネ		
ヒ	ル	ガ	オハマヒルガオ		
サ	ク	ラ	ソウクサレダマ		
セ	リ	オ	オチドメ		
"	"	"	ハマボウフウ		
ア	リ	ノ	トウグサ	少	ない
ア	カ	バ	ナオオマツヨイグサ		
ミ	ソ	ハ	ギエゾミソハギ		
ス	ミ	レ	イソスミレ		
マ	メ	ド	ハギ		
"	"	"	ミヤコグサ	多	い
"	"	"	エゾレンリソウ		
"	"	"	ハマエンドウ		
"	"	"	ムラサキツメクサ		
"	"	"	シロツメクサ		
バ	ラ	ナ	ヲシロツメクサ		
ア	ブ	ラ	ナハマハタザオ	㊦	に 群 生
ナ	デ	シ	コオオヤマフスマ		
タ	デ	ヒ	メスイバ		
イ	グ	サ	イヌイ		
"	"	"	スズメノヤリ		
カ	ヤ	ツ	リグサ		
"	"	"	コウボウムギ		
"	"	"	ヒカゲスゲ		
"	"	"	コウボウシバ		
イ	ネ	カ	モガヤ		
"	"	"	ナガハグサ	㊦	に 1カ所 群 生
"	"	"	コヌカグサ	少	ない
"	"	"	ススネ	群 生	あり
"	"	"	テンキクサ	少	ない

オ	シ	ダ	ヒ	メ	シ	ダ
ス	ギ	ゴ	ケ	ス	ギ	ゴ
ハ	ナ	ゴ	ケ	ハ	ナ	ゴ

調査区域B-7 木 木

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス
カ	バ	ノ	キ	ケ	ヤマ
ヤ	ナ	ギ	イ	ヌ	コ
"	"	"	エ	ゾ	ノ
"	"	"	ボ	ブ	ラ

B7の区域は中央部の低地で平坦であり、一部に湿地がある。ススキが全域に多く見られ優占種となっている。ハマナス、コウボウムギ、エゾカワラマツバの小群落もあり、湿地にはユウゼンギク、イヌイ、メドハギの小群落が各所に点在している。本木ではエゾカワヤナギ、イヌコリヤナギ、ボブラが自生しハンノキの幼木の小群落もある。

調査区域B-8

科	名	植 物 名	備 考
キ	ク	ヤナギタンポポ	
"	"	コウゾリナ	
"	"	タンポポモドキ	
"	"	ハマオトコヨモギ	
"	"	エゾヨモギ	
"	"	ノコギリソウ	多
"	"	カセンソウ	い
"	"	ユウゼンギク	群 生 多
"	"	オグルマ	い
キ	ク	アキノキリンソウ	

キ	ク	ヒ	ヨ	ド	リ	バ	ナ		
ア	カ	ネ	ア	カ	ネ	ム	グ	ラ	多
"	"	"	エ	ゾ	カ	ワ	ラ	マ	多
"	"	"	キ	バ	ノ	カ	ワ	ラ	少
"	"	"	ホ	ソ	バ	ノ	ヨ	ツ	な
オ	オ	バ	コ	ヘ	ラ	オ	オ	バ	い
シ	ソ	シ	ロ	ネ					
"	"	"	エ	ソ	シ	ロ	ネ		
"	"	"	エ	ゾ	イ	ヌ	ゴ	マ	少
"	"	"	エ	ゾ	ナ	ミ	キ	ソ	な
ヒ	ル	ガ	オ	ハ	マ	ヒ	ル	ガ	四
サ	ク	ラ	ソ	ウ	ク	サ	レ	ダ	部
セ	リ	オ	オ	チ	ド	メ			と
"	"	"	ハ	マ	ボ	ウ	フ	ウ	に
ア	リ	ノ	ト	ウ	グ	サ			多
ア	カ	バ	ナ	オ	オ	マ	ツ	ヨ	い
"	"	"	メ	マ	ツ	ヨ	イ	グ	に
ミ	ソ	ハ	ギ	エ	ゾ	ミ	ソ	ハ	多
オ	ト	ギ	リ	ソ	ウ	ミ	ズ	オ	い
"	"	"	オ	ト	ギ	リ	ソ	ウ	
マ	メ	メ	ド	ハ	ギ				
"	"	"	ミ	ヤ	コ	グ	サ		
"	"	"	エ	ゾ	ノ	レ	ン	リ	
"	"	"	ハ	マ	エ	ン	ド	ウ	少
"	"	"	ム	ラ	サ	キ	ツ	メ	な
バ	ラ	ナ	ヲ	シ	ロ	ツ	メ	ク	い
ス	イ	レ	ン	ヒ	ツ	ジ	グ	サ	
ナ	デ	シ	コ	オ	オ	ヤ	マ	フ	沼
ア	カ	ザ	シ	ロ	ザ				に
タ	デ	ヒ	メ	ス	イ	バ			自
"	"	"	エ	ゾ	ノ	ギ	シ	ギ	生
ラ	ン	ネ	ジ	バ	ナ				
ア	ヤ	メ	ノ	ハ	ナ	シ	ョ	ウ	群

ユ	リ	オ	ニ	ユ	リ	
イ	グ	サ	イ	ヌ	イ	
"	"	"	イ	ヌ	イ	
"	"	"	ス	ズ	メ	沼地に8㎡自生
カ	ヤ	ツ	リ	グ	サ	
"	"	"	フ	ト	イ	
"	"	"	ア	ブ	ラ	
"	"	"	コ	ウ	ボ	
"	"	"	ヒ	カ	グ	
"	"	"	コ	ウ	ボ	多
"	"	"	ヤ	ラ	メ	い
"	"	"	ゴ	ウ	ソ	
イ	ネ	カ	モ	ガ	ヤ	
"	"	ナ	ガ	ハ	グ	◎に1カ所群生
"	"	ヨ			シ	少
"	"	コ	ヌ	カ	グ	い
"	"	イ	ワ	ノ	ガ	
"	"	オ			キ	
"	"	ス	ス	キ		多
"	"	テ	ン	キ	グ	群
"	"	ス	キ		ナ	生
ト	ク	サ	ス	キ	ナ	少
オ	シ	ダ	コ	ウ	ヤ	な
"	"	"	ヒ	メ	シ	い
"	"	"	モ	ウ	セ	多
"	"	"	モ	ウ	セ	い
"	"	"	ヤ	マ	ゴ	◎◎の2カ所あり
"	"	"	ハ	ナ	ゴ	
"	"	"	ミ	ズ	ゴ	類

調査区域B-8 木 本

ブ	ド	ウ	ヤ	マ	ブ	ド	ウ
ニ	シ	キ	ツ	ル	ウ	メ	モ
バ		ラ	ハ	マ	ナ	ス	キ

バ	ラ	ナ	ワ	シ	ロ	イ	チ	ゴ
ヤ	ナ	ギ	ボ	ブ	ラ			
"	"	"	エ	ゾ	ノ	カ	ワ	ヤ
"	"	"	イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ
カ	バ	ノ	キ	ケ	ヤ	マ	ハ	ン
"	"	"	シ	ラ	カ	ン	バ	

注 約30㎡位の沼あり、フトイ、ヒツジグサ、ヨシが自生している。

B8の区域は沼地で平坦な地形をなしている。ススキ、ユウゼンギク、ヒメシダ、オオチドメが多く共生し優占種となっており、エゾミソハギ、エゾイヌゴマ、クサレダマ等が多くみられる。

B8@区域には地沼地があり、ヒツジグサ、フトイが自生しており、付近にはモウセンゴケも見られる。

B8@区域にはノハナショウブの群落もあり開花期の景観が素晴らしい。

本木としてはイヌコリヤナギ、エゾノカワヤナギ、ハンノキが多い。

調査区域B-9

科	名	植 物 名	備	考
キ	ク	ヤナギタンボ	ボ	
"	"	コウゾリナ	ナ	
"	"	タンボボモ	キ	
"	"	エゾヨモギ		
"	"	ノコギリソウ		
"	"	カセンソウ	ウ	
"	"	オグルマ	マ	
"	"	ヒメムカシヨモギ		

キ	ク	ユウ	ゼン	ギク		
"	"	ア	キノ	キリン	ソウ	
"	"	イ	ガ	オ	ナ	
ア	カ	ネ	ア	カ	ネ	ム
"	"	エ	ゾ	カ	ワ	ラ
"	"	マ	ツ	バ	コ	
オ	オ	バ	コ	ソ		
"	"	シ	ロ	ネ		
"	"	エ	ゾ	イ	ヌ	ゴ
"	"	エ	ゾ	ナ	ミ	キ
"	"	ハ	マ	ヒ	ル	ガ
"	"	サ	ク	ラ	ソ	ウ
"	"	セ	リ	オ	オ	チ
"	"	ア	カ	バ	ナ	
"	"	メ	メ	マ	ツ	ヨ
"	"	メ	ド	ハ	ギ	
"	"	ミ	ヤ	コ	ゴ	
"	"	エ	ゾ	ノ	レ	ン
"	"	ハ	マ	エ	ン	ド
"	"	ム	ラ	サ	キ	ツ
"	"	シ	ロ	ツ	メ	ク
"	"	バ	ラ	イ	ヌ	シ
"	"	キ	ン	ボ	ウ	グ
"	"	ス	イ	レ	ン	ヒ
"	"	ナ	デ	シ	コ	オ
"	"	ア	カ	ザ	シ	ロ
"	"	タ	デ	ヒ	メ	ス
"	"	ラ	ン	サ	ナ	エ
"	"	ユ	リ	オ	ニ	ユ
"	"	イ	グ	サ	イ	

川岸に多い

道路沿いに多い

多 沼に自生

イ	グ	サ	イ	ヌ	イ	
"	"	"	ク	サ	イ	
"	"	"	ス	ズ	メ	ノ
カ	ヤ	ツ	リ	フ	ト	イ
"	"	"	コ	ウ	ボ	ウ
"	"	"	ム	ギ	ヒ	カ
"	"	"	ゲ	ス	ゲ	コ
"	"	"	ウ	ボ	ウ	シ
"	"	"	バ	ヤ	ラ	メ
"	"	"	ス	ゲ	カ	モ
イ	ネ	カ	モ	ガ	ヤ	
"	"	ナ	ガ	ハ	グ	サ
"	"	コ	ヨ	メ	カ	グ
"	"	サ	イ	ワ	ノ	ガ
"	"	リ	ヤ	マ	ア	ワ
"	"	オ	ギ	ス	ス	キ
"	"	テ	ン	キ	グ	サ
"	"	ト	ク	サ	ス	ギ
"	"	ナ	オ	シ	ダ	ヒ
"	"	メ	シ	ダ	フ	ユ
"	"	ハ	ナ	ワ	ラ	ビ
"	"	モ	ウ	セ	ン	ゴ
"	"	ケ	ス	ギ	ゴ	ケ
"	"	ミ	ズ	ゴ	ケ	類
"	"	ミ	ズ	ゴ	ケ	類

川岸に自生

川岸に自生
道路沿いに自生

調査区域B-9 木 本

ス	イ	カ	ズ	ラ	キ	ン	ギ	ン	ボ	ク
カ	バ	ノ	キ	ケ	ヤ	マ	ハ	ン	ノ	キ
バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス	エ	ゾ	ノ	カ	ワ
ヤ	ナ	ギ	イ	ヌ	コ	リ	ヤ	ナ	ギ	
"	"	"	エ	ゾ	ヤ	マ	ナ	ラ	シ	

B9区域は管理道路をはさみ、湿地と川岸よりなり、川岸砂丘をのぞき、平坦な地形になっている。

湿地にはススキ、ユウゼンギク、オオチドメが多く優占種となっており、ネジバナ、フユノハナワラビも見られる。

1部乾燥地にはハマナス、ハマヒルガオ、カモガヤが多く川岸はヨシの自生多く優占種となっている。

道路脇にはイガオナモミも見られる。

調査区域C-1

科	名	植 物 名	備 考									
キ	ク	ハ マ ニ ガ ナ	海 側 に 多 い									
"	"	イ ガ オ ナ モ ミ										
ゴ	マ	ノ	道 路 よ り 海 側 に 多									
ヒ	ル	ガ	オ	道 路 よ り 海 側 に 多								
マ	メ	ハ	マ	エ	ン	ド	ウ					
ア	カ	ザ	オ	カ	ヒ	ジ	キ	海 側 に 自 生				
タ	デ	ヒ	メ	ス	イ	バ						
カ	ヤ	ツ	レ	グ	サ	コ	ウ	ボ	ウ	ム	ギ	
イ	ネ	ヨ	シ	海 側 に 自 生								
"	"	ス	ス	キ								
"	"	テ	ン	キ	グ	サ	多					

木 本

バ	ラ	ハ	マ	ナ	ス	◎にイカ所自生
---	---	---	---	---	---	---------

この区域は河口に位置し海岸砂原、砂丘及び川岸砂原よりなっている。海岸砂原にはオカヒジキ、テンキグサ、ハマニガナが見られ、砂丘はテンキグサ、ハマボウフウ、コウボウムギが多く共生して優占種となっている。ハマナスの小群落も8カ所程度存在している。

河口突端部の砂原にはハマボウフウ、ハマニガナ、コウボウ

ムギが多く見られ、ハマボウフウの幼苗が多く群落をなしている。特にこの区域は鳥類の飛来が多く石狩川河口の雄大な景観が眺められる。

調査区域C-2

科	名	植 物 名	備 考									
キ	ク	ハ マ ニ ガ ナ	丘の部分に多い									
"	"	ヤ	ナ	ボ	ク	ン	ボ					
"	"	コ	ウ	ゾ	リ	ナ						
"	"	タ	ン	ボ	ボ	モ	ド	キ				
"	"	カ	セ	ン	ソ	ウ						
"	"	ヒ	メ	ム	カ	シ	ヨ	モ	ギ			
ア	カ	ネ	エ	ゾ	カ	ワ	ラ	マ	ツ	バ		
"	"	キ	バ	ナ	カ	ワ	ラ	マ	ツ	バ		
オ	オ	バ	コ	ヘ	ラ	オ	オ	バ	コ	道 路 側 に 多 い		
ゴ	マ	ノ	ハ	グ	サ	ウ	ン	ラ	ン			
ヒ	ル	ガ	オ	ハ	マ	ヒ	ル	ガ	オ			
サ	ク	ラ	ソ	ウ	ク	サ	レ	ダ	マ			
セ	リ	ハ	マ	ボ	ウ	フ	ウ	川 沿 い に 幼 苗 多				
ア	カ	バ	ナ	オ	オ	マ	ツ	ヨ	イ	グ	サ	道 路 側 に 多 い
ミ	ソ	ハ	ギ	エ	ゾ	ミ	ソ	ハ	ギ			
ス	ミ	レ	イ	ソ	ス	ミ	レ					
マ	メ	メ	ド	ハ	ギ							
"	"	ハ	マ	エ	ン	ド	ウ	◎は少ないが野生				
"	"	シ	ロ	ツ	メ	ク	サ	道 路 側 に 多 い				
バ	ラ	ナ	ガ	マ	ノ	シ	ロ	リ	レ	モ	コ	
ア	ブ	ラ	ナ	ハ	マ	ハ	タ	ザ	オ	◎に群生		
タ	デ	ヒ	メ	ス	イ	バ						
イ	グ	サ	イ							群		生
"	"	ス	ズ	メ	ノ	ヤ	リ					
カ	ヤ	ツ	リ	グ	サ	コ	ウ	ボ	ウ	ム	ギ	多

調査区域C-3

カヤツリグサ	ヒカゲスゲ	
イネ	コウボウシバ	道路側に多い
ウシノケグサ	カモガヤ	③に1カ所群生
ナガハグサ	ヨシ	③に1カ所群生
コヌカグサ	ヤマアワ	③に1カ所群生
ススキ	ススキ	多い
テンキグサ		

バ	ラ	ハマナス	4カ所に群生
カバノキ	ケヤマハンノキ	エゾノカワヤナギ	2カ所に群生
ヤナギ	イヌコリヤナギ		

C2の区域は砂丘と河口川岸の砂原よりなり浸食のため年々変化している。

砂丘にはハマナスの小群落が15カ所視点在している、④の区域にはススキが多く優占種となっている。他にはイネの群落もあり、ナガボノシロワレモコウもみられる。

③の区域にはコウボウムギ、テンキグサ、ハマボウフウが多く優占種となっており、小高い所にはウンラン、コウボウムギが多く見られる。

川岸の砂原にはテンキグサ、ハマニガナが多く、特にハマボウフウの幼苗が多く見られる。

B1の区域同様河口の雄大な景観が眺められる。

科名	植物名	備考
キク	ハマニガナ	
タネ	タンポポモドキ	多い
タカアザミ	タカアザミ	1株自制
ヒメムカシヨモギ	ヒメムカシヨモギ	道路沿いに多い
アカネ	エゾカワラマツバ	
オオバコ	ヘラオオバコ	
ゴマノハグサ	ウンラン	少ない
ヒルガオ	ハマヒルガオ	川沿いに多い
セリ	ハマボウフウ	少ない
アカバナ	オオマツヨイグサ	道路沿いに多い
メマツヨイグサ	メマツヨイグサ	
スミレ	イソスミレ	④に約10株
マメ	メドハギ	少ない
ハマエンドウ	ハマエンドウ	
ムラサキツメクサ	ムラサキツメクサ	道路沿いに自制
シロツメクサ	シロツメクサ	道路沿いに自制
アブラナ	ハマハタザオ	
タデ	ヒメスイバ	
ラン	ネジバナ	
イグサ	イグサ	多い
カヤツリグサ	スズメノヤリ	
コウボウムギ	コウボウムギ	
ヒカゲスゲ	ヒカゲスゲ	川沿いに多い
コウボウシバ	コウボウシバ	多い
ウシノケグサ	ウシノケグサ	
カモガヤ	カモガヤ	
ナガハグサ	ナガハグサ	
ヨシ	ヨシ	川沿いに多い
コヌカグサ	コヌカグサ	

イネ	ススキ	キナ	多い
トクサ	スギ	ナ	川沿いに多い
スギ	スギ	ケ	類

木本

バ	ラ	ハマナス	ス	
カバノキ	ケヤマハンノキ	ヤナギ	ボ	1カ所に自生
ヤナギ	エゾノカワヤナギ	イヌコリヤナギ		

C3の区域は砂丘と川岸よりなり管理道路の終点部であり、砂丘にはコウボウムギ、ハマナス、ススキが多くハマヒルガオ、イソスミレも見られススキは優占種となっている。

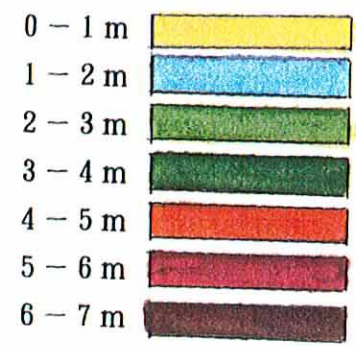
川岸にはヨシ・テンキグサが多く、テンキグサが優占種である。道路上及び周辺には帰化植物や雑草と称させるものが多く見られる。

※ テンキグサとあるのは、ハマニンニクの別名である。

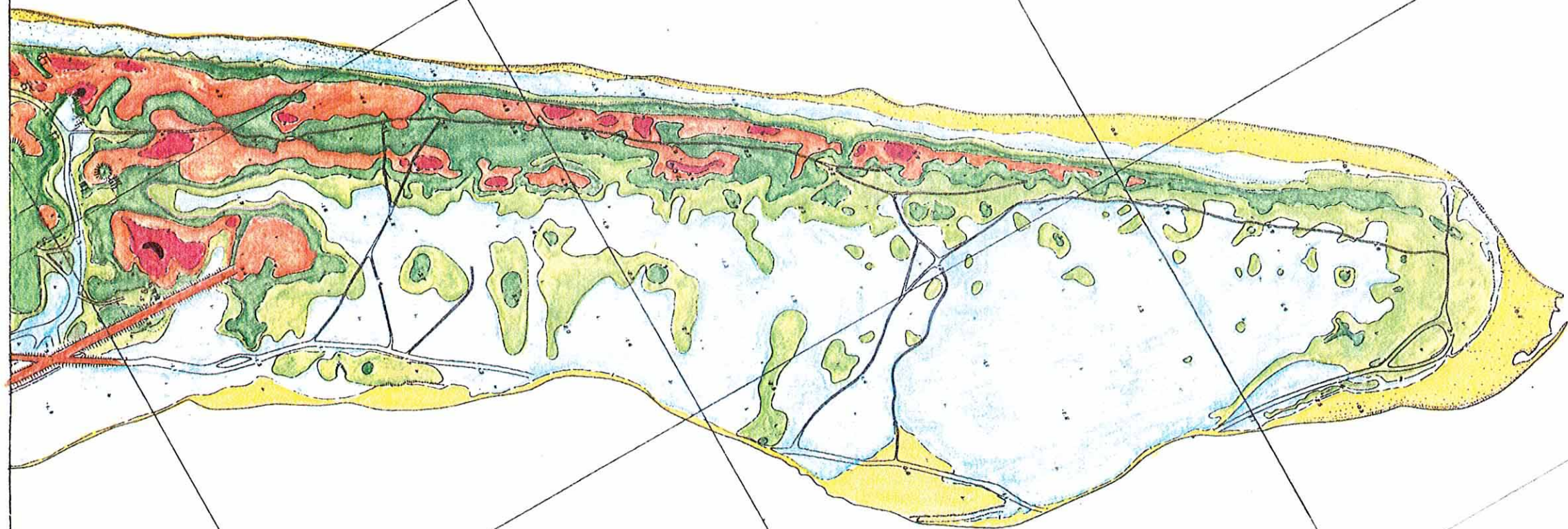
植 物 調 查 資 料

- 石狩川河口地域地形図
- 石狩川河口地域植物分布図
- 石狩川河口地域湿地帯植物分布図
- 石狩川河口地域植物標本目録

石狩川河口地域地形図






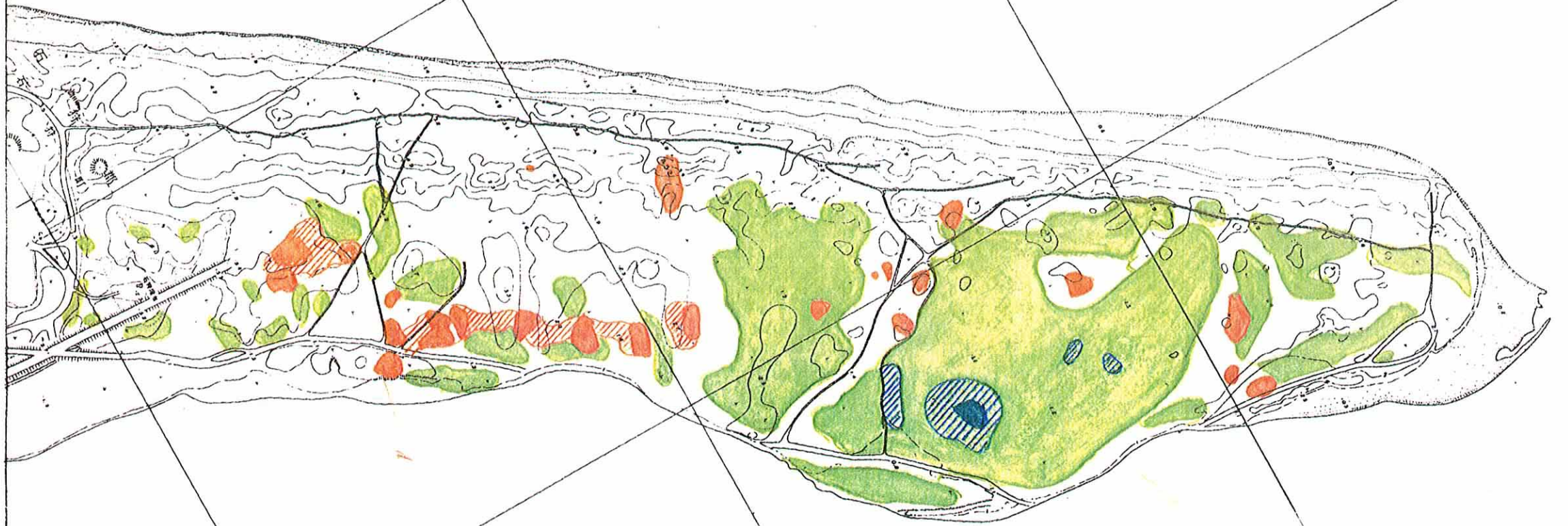
石狩湾



石狩川

石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

- | | |
|---------|---|
| ノハナショウブ |  |
| イソスミレ |  |
| ススキ |  |



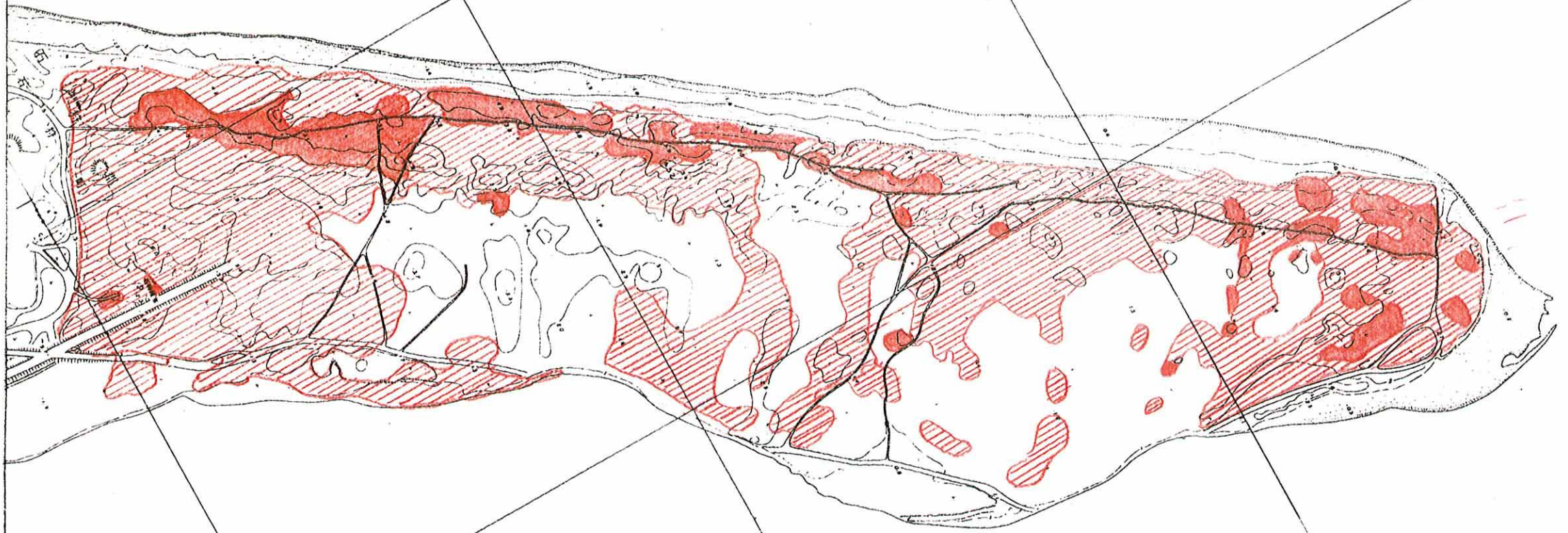
石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

ハマニンニク



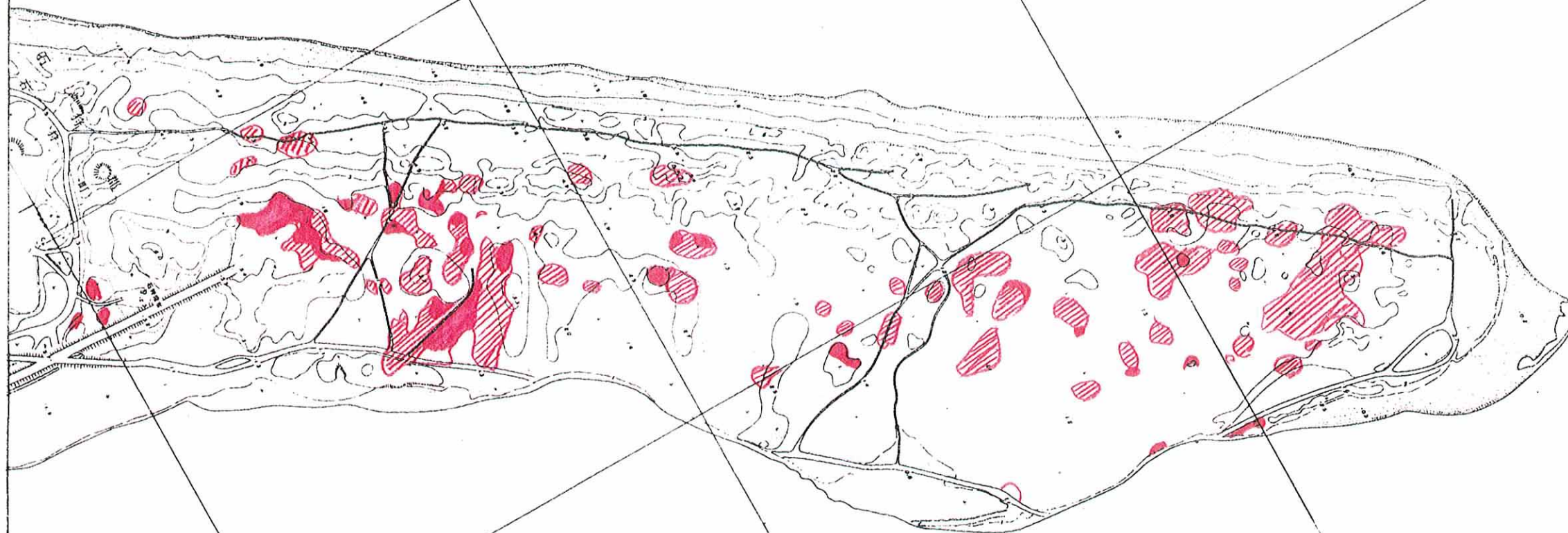
石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

コウボウムギ



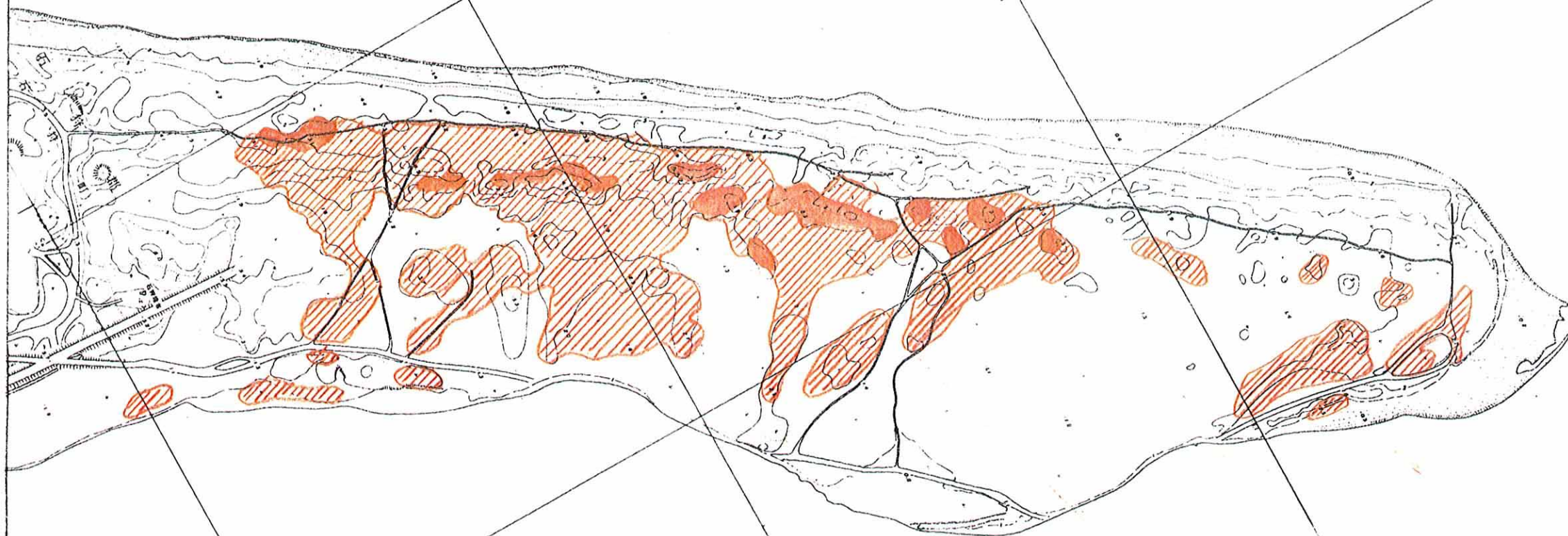
石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

ハマエンドウ



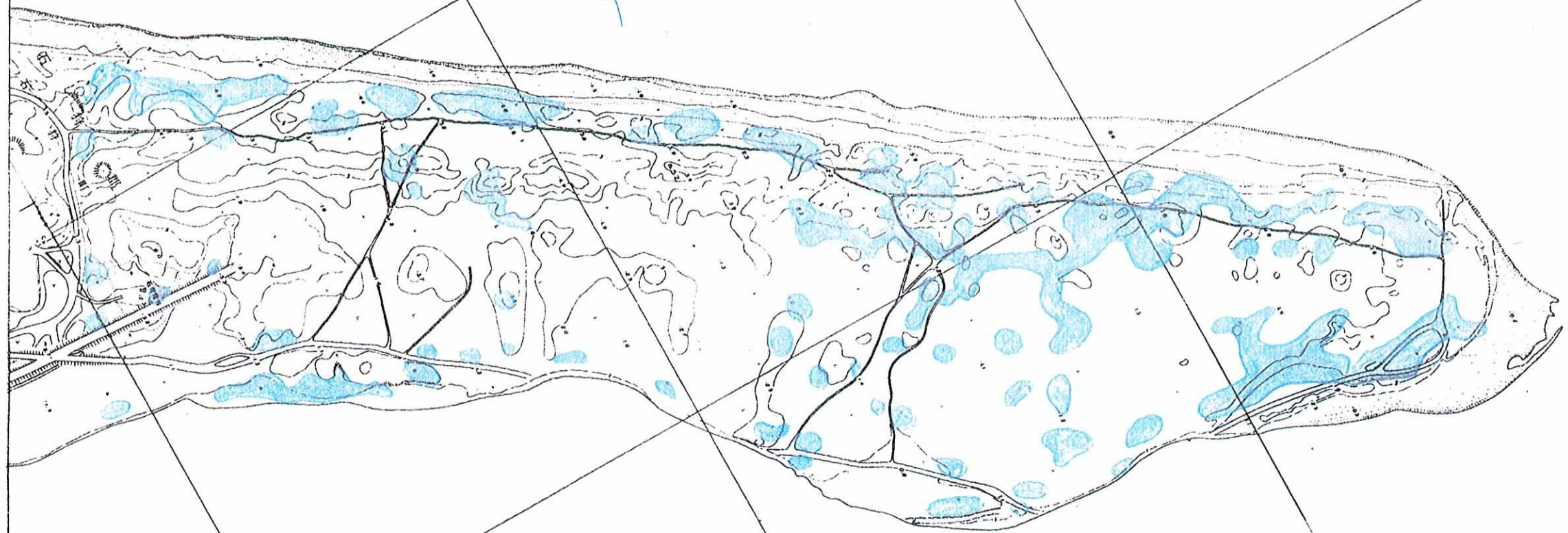
石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

ハマハタザオ



石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

ハマヒルガオ



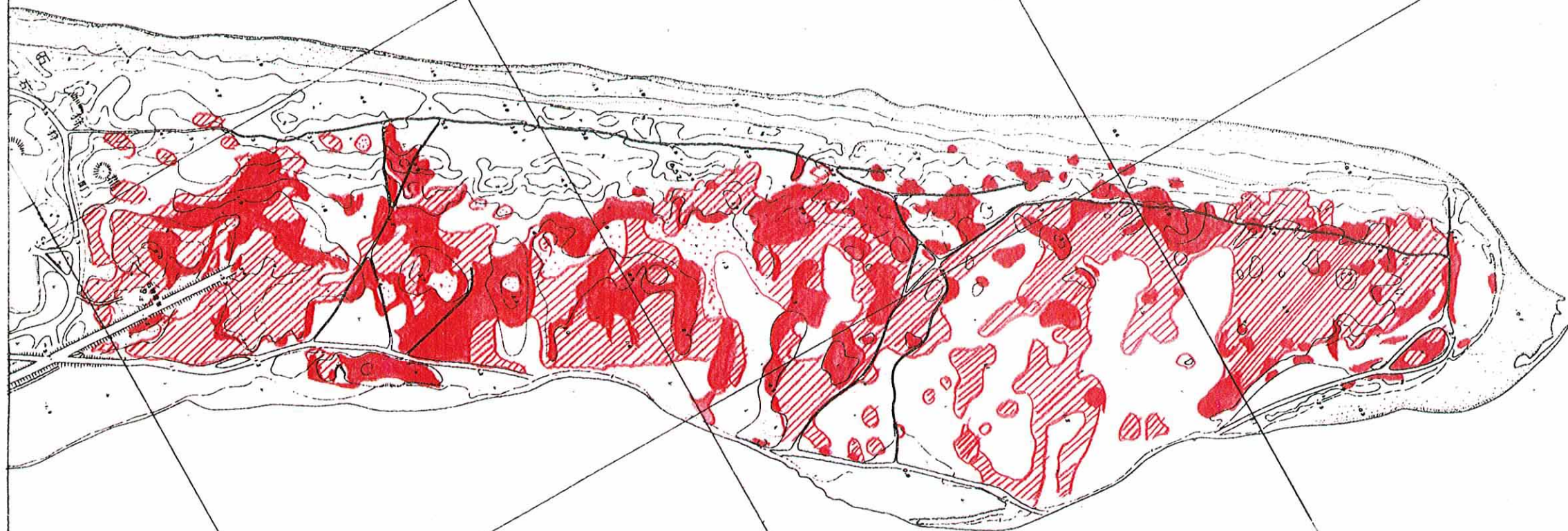
石狩川河口地域植物分布図 (平成元年8月15日)

ハマボウフウ



石狩川河口地域植物分布図（平成元年8月15日）

ハマナス



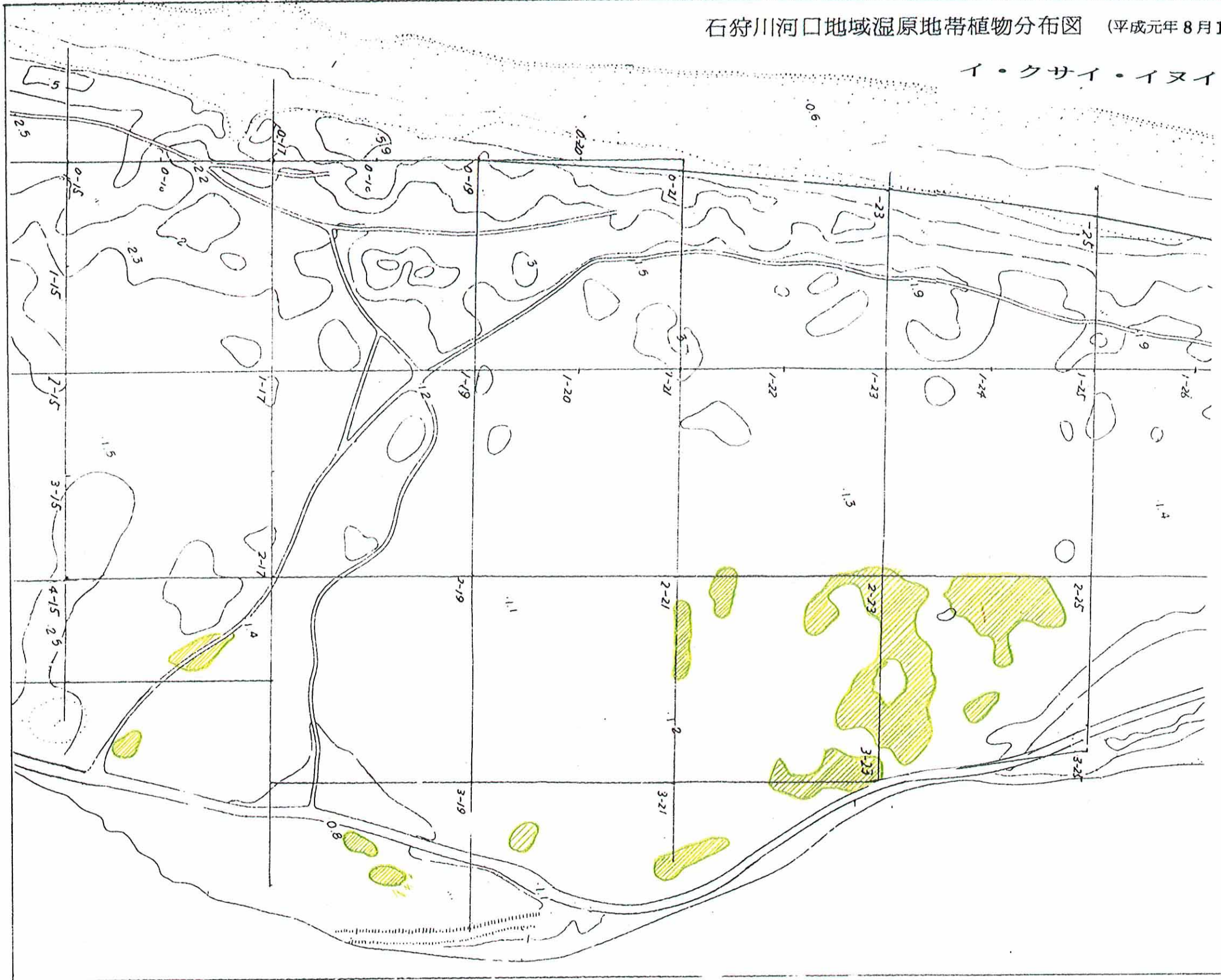
石狩川河口地域植物分布図（平成元年8月15日）

ウ ン ラ ン

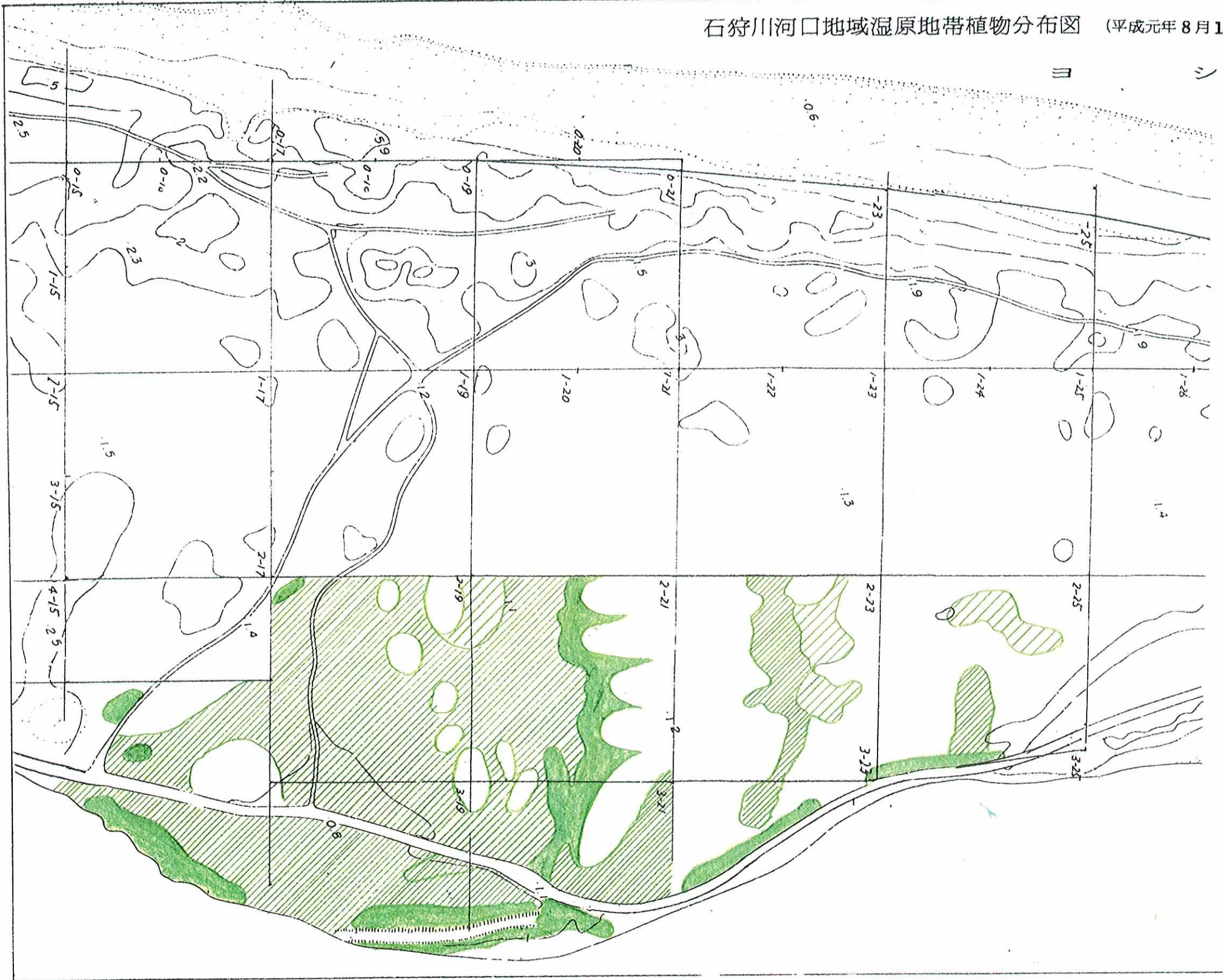


石狩川河口地域湿原地帯植物分布図 (平成元年8月15日)

イ・クサイ・イヌイ

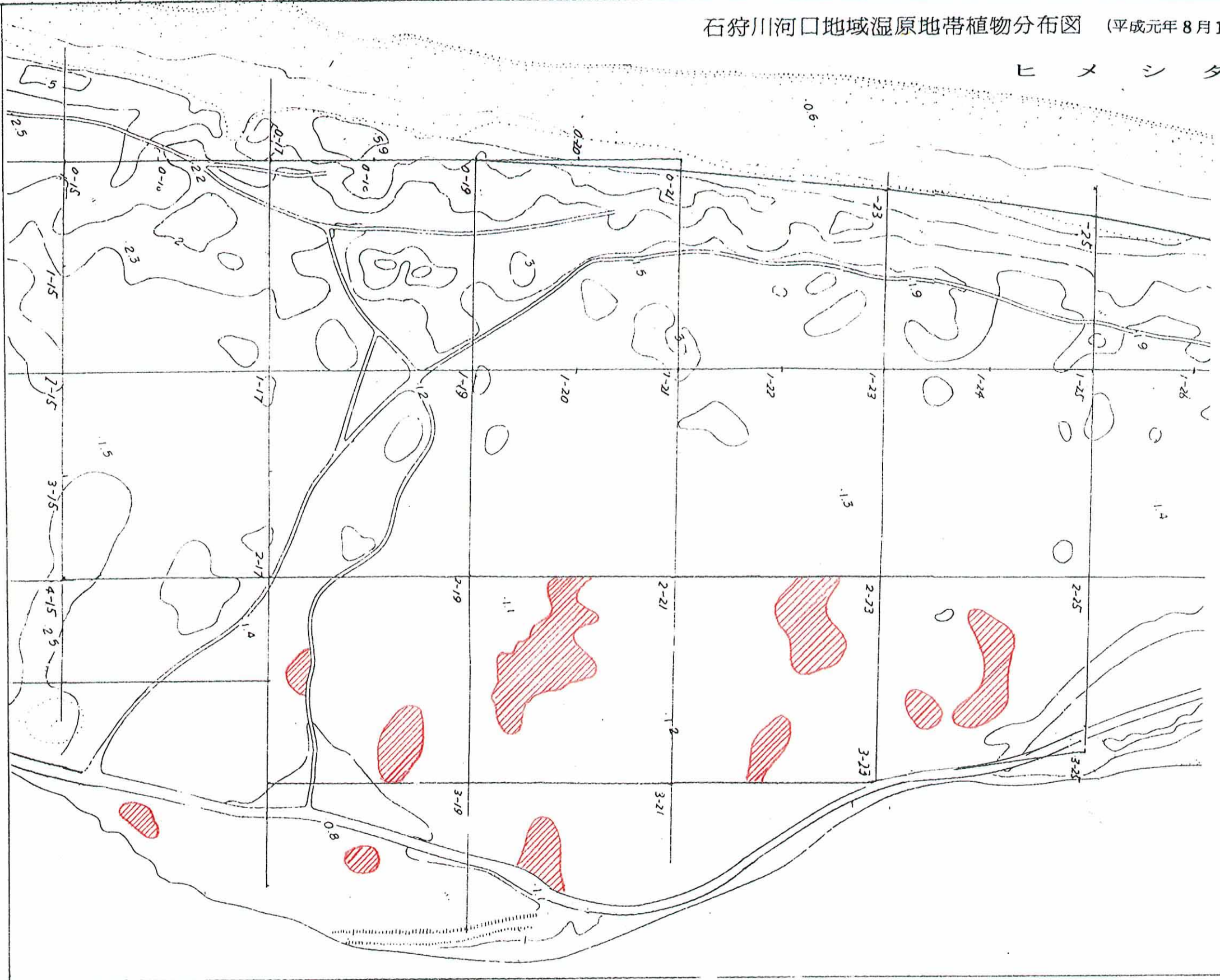


石狩川河口地域湿原地帯植物分布図 (平成元年8月15日)



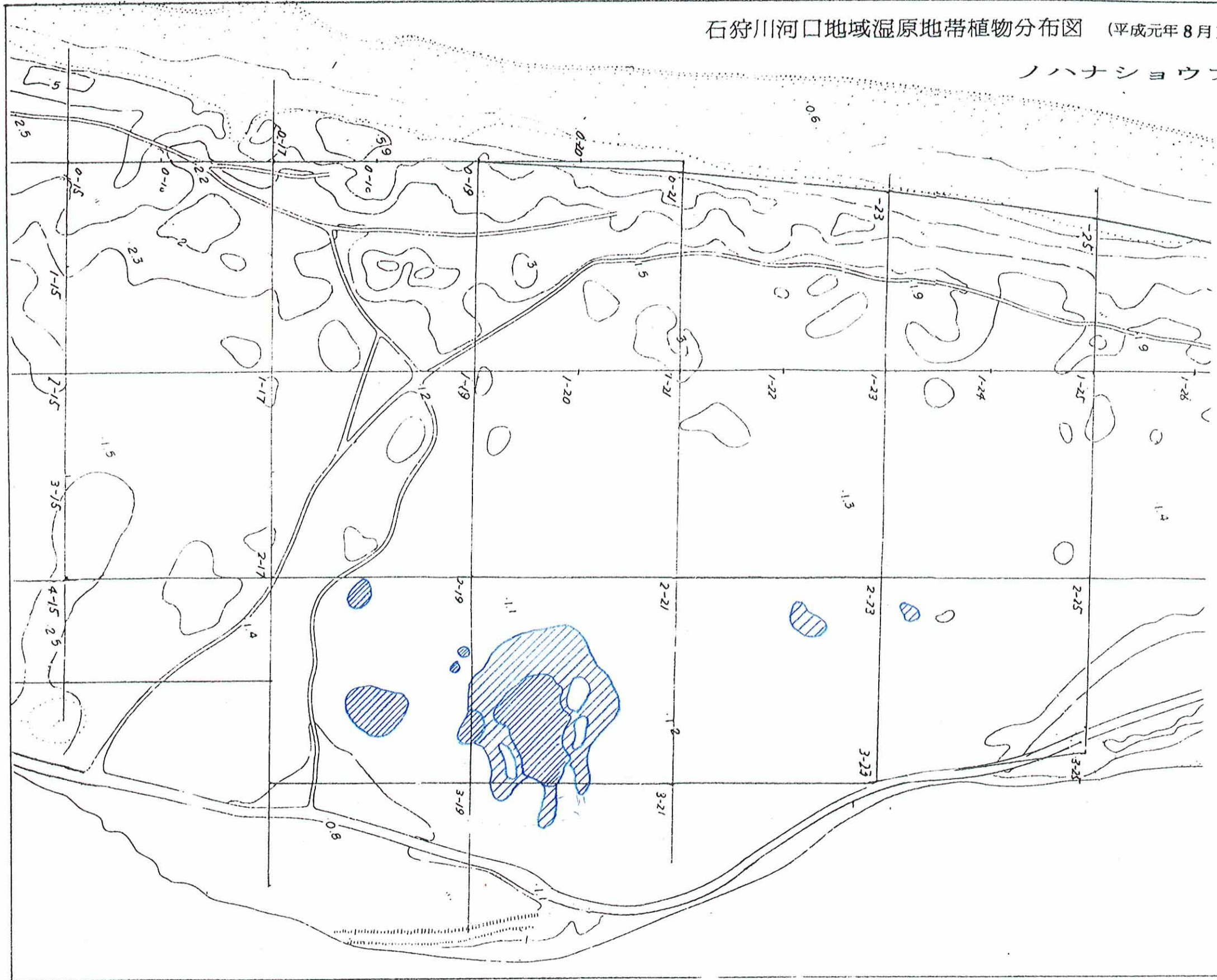
石狩川河口地域湿原地帯植物分布図 (平成元年8月15日)

ヒメシダ

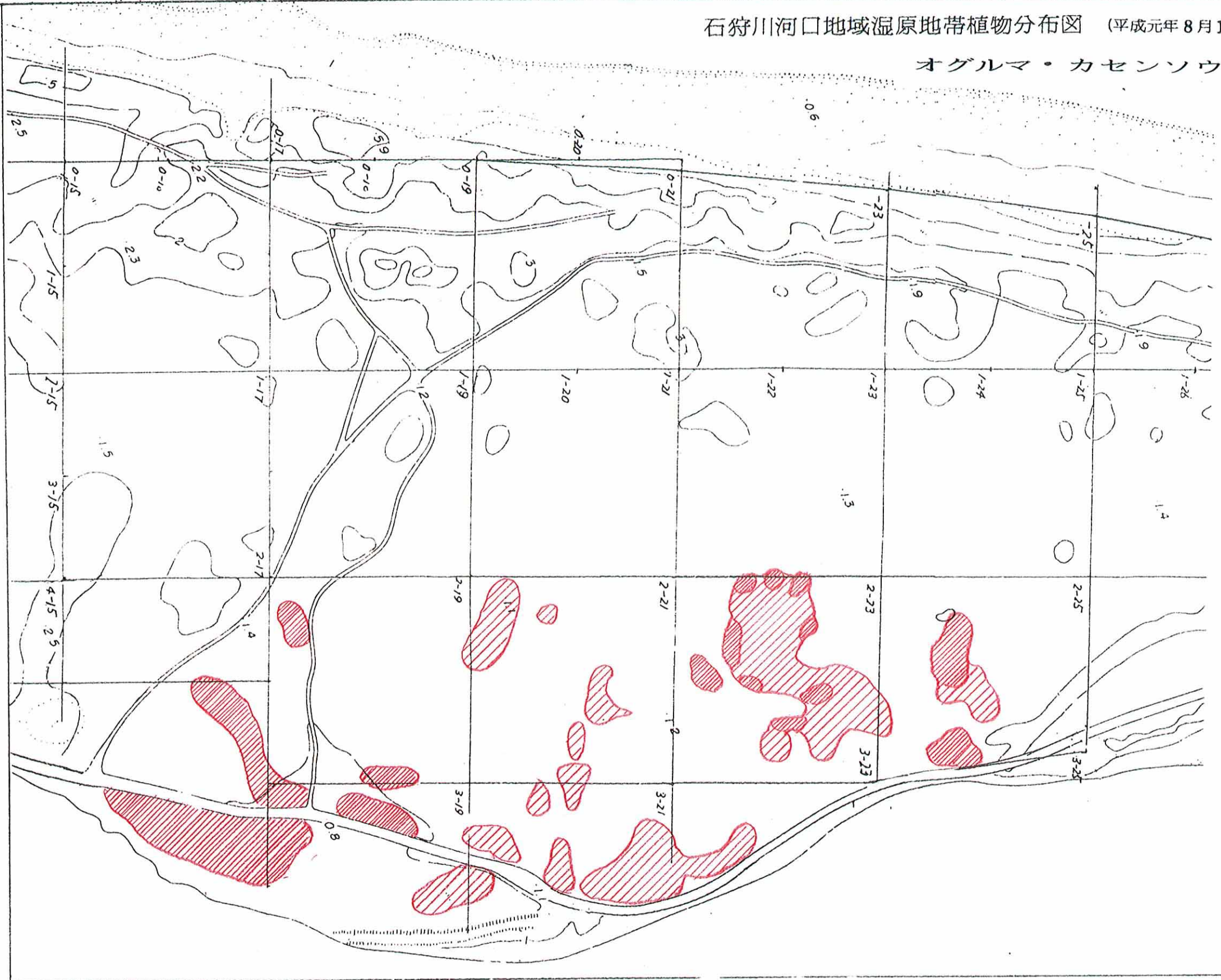


石狩川河口地域湿原地帯植物分布図 (平成元年8月15日)

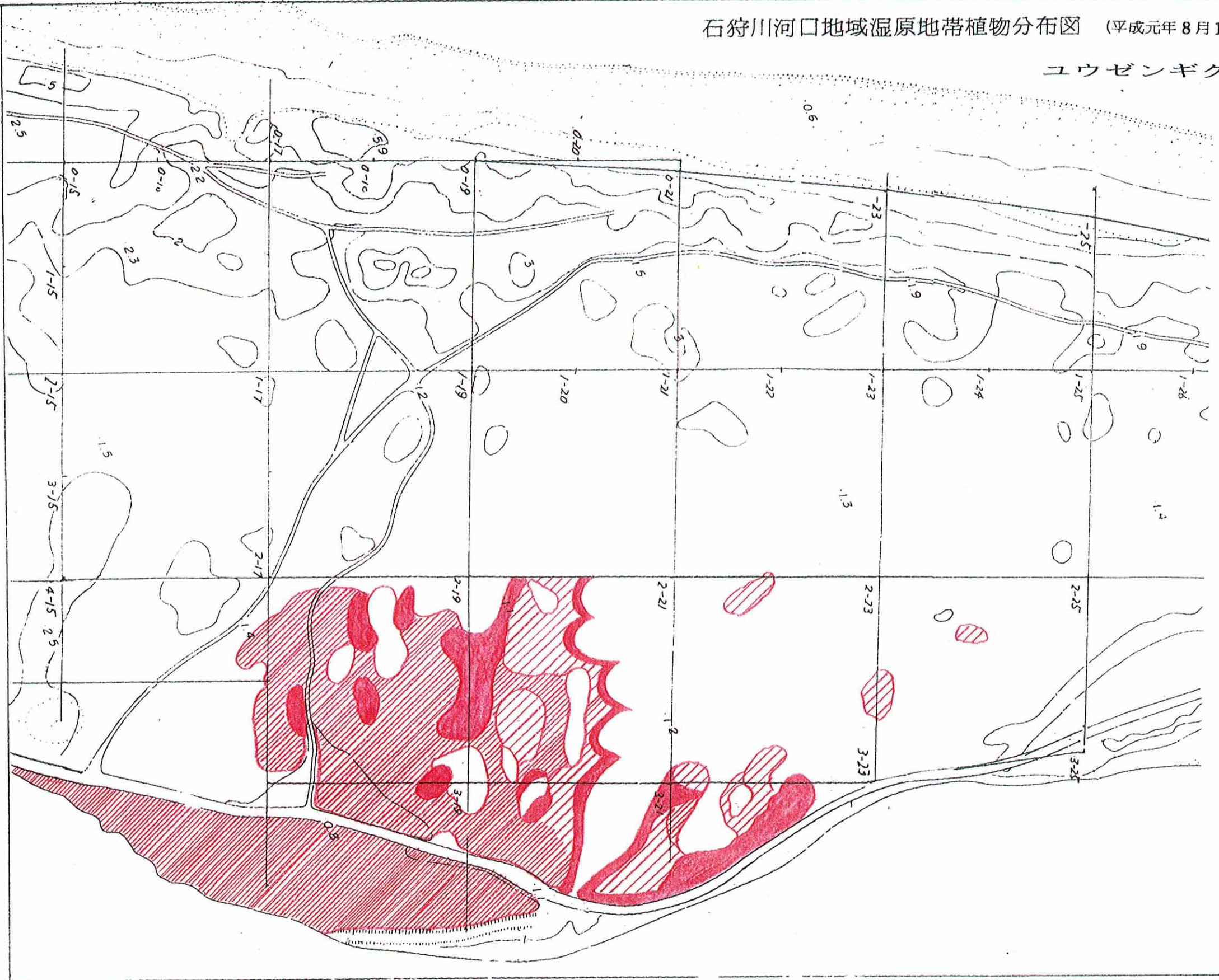
ノハナショウブ



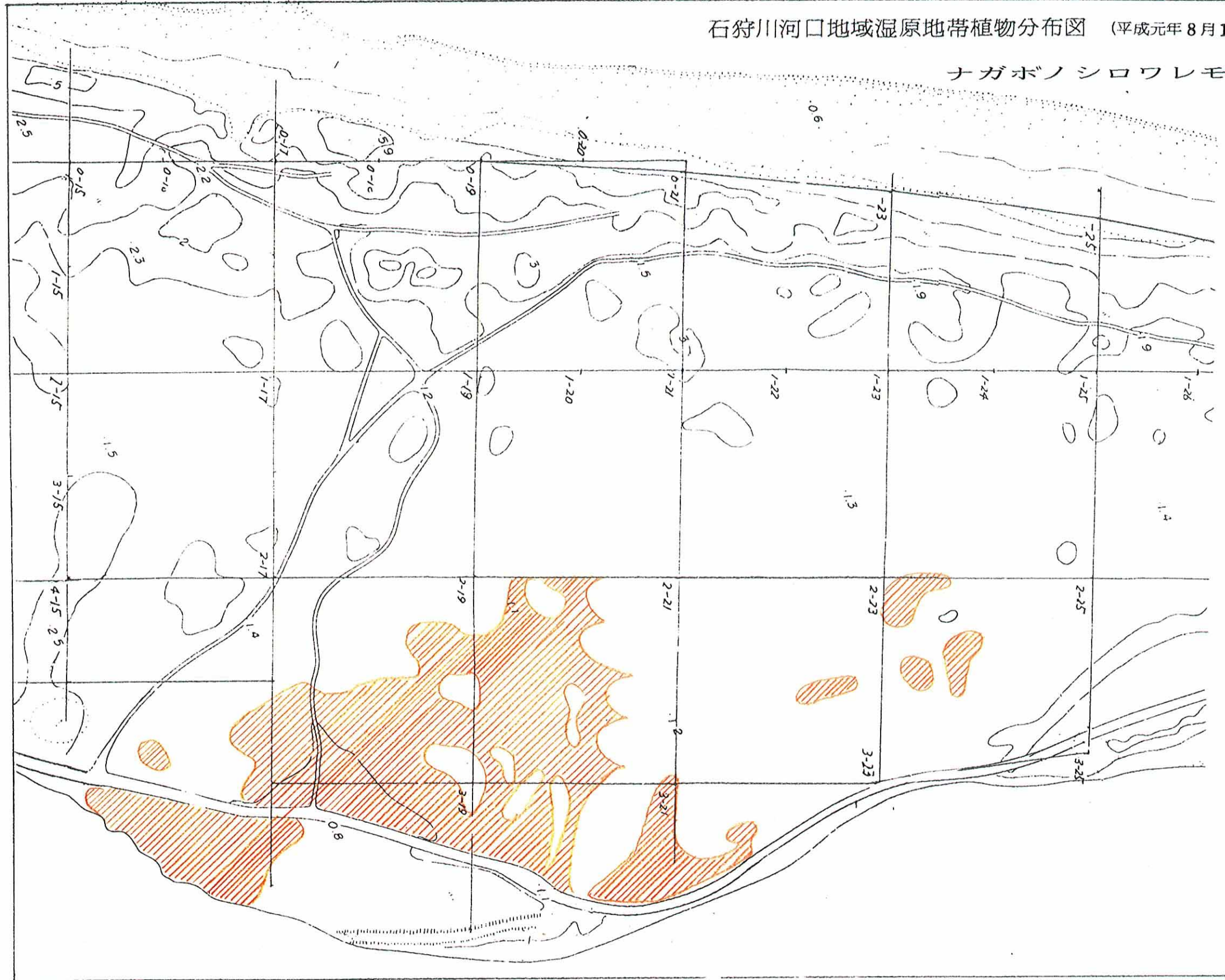
オグルマ・カセンソウ



ユウゼンギク



ナガボノシロワレモコウ



植物標本目録

草 本

- きく科 Compositae
 No. 1 ハチジョウナ
Sonchus brachyotus DC.
 No. 2 ハマニガナ
Ixeris repens (L.) A. Gray
 No. 3 アキノノゲシ
Lactuca indica L.
 No. 4 ヤナギタンポポ
Hieracium umbellatum L.
 No. 5 タンポポモドキ (アクナ) *
Hypochoris radicata L.
 No. 6 エゾヨモギ (オオヨモギ)
Artemisia montana (Nakai) Pamp.
 No. 7 ノコギリソウ
Achillea sibirica Ledeb.
 No. 8 セイヨウノコギリソウ *
Achillea millefolium L.
 No. 9 アメリカセンダングサ *
Bidens frondosa L.
 No. 10 ヒメムカシヨモギ *
Erigeron canadensis L.
 No. 11 ヌウゼンギク *
Aster novi-belgii L.
 No. 12 オオアワダチソウ *
Solidago gigantea Ait. var. *leiophylla* Fern.
 No. 13 セイタカアワダチソウ *
Solidago altissima L.
 No. 14 アキノキリンソウ
Solidago virga aurea L. subsp. *asiatica* Kitam.
 No. 15 ヒヨドリバナ
Eupatorium chinense L. var. *simplicifolium* (Makino)
 No. 16 イガオナモミ *
Xanthium italicum Moretti
 No. 17 オグルマ
Inula britannica L. subsp. *japonica* Kitam.
- ききょう科 Campanulaceae
 No. 18 サワギキョウ
Lobelia sessilifolia Lamb.

- あかね科 Rubiaceae
 No. 19 アカネムグラ
Rubia jesoensis (Miq.) Miyabe et Miyake
 No. 20 エゾカワラマツバ
Galium verum L. var. *trachycarpum* DC.
 No. 21 ホソバノヨツバムグラ
Galium trifidum L. var. *brevipedunculatum* Regel

- おおぼこ科 Plantaginaceae
 No. 22 ヘラオオバコ *
Plantago lanceolata L.

- ごまのはくさ科 Scrophulariaceae
 No. 23 ウンラン
Rinaria japonica Miq.

- なす科 Solanaceae
 No. 24 オオマルバノホロシ
Solanum megacarpum Koidz.

- しそ科 Labiatae
 No. 25 シロネ
Lycopus lucidus Turcz.
 No. 26 エゾイヌゴマ
Stachys Riederi Chamisso var. *villosa* (Kudo) Kitam.
 No. 27 エゾナミキソウ
Scutellaria strigillosa Hemsl. var. *ezoensis*

- ひるがお科 Convolvulaceae
 No. 28 ハマヒルガオ
Calystegia soldanella (L.) Roem. et Schult.

- りんどう科 Gentianaceae
 No. 29 エゾリンドウ
Gentiana triflora Pall.

- せり科 Umbelliferae
 No. 30 オオチドメ
Hydrocotyle raniflora Maxim.
 No. 31 ハマボウフウ
Glehnia littoralis Fr. Schm.

- ありのとうぐさ科 Hararagaceae
 No. 32 アリノトウグサ
Hararagis micrantha (Thunb.) R. Br.

あかぼな科 Onagraceae

No. 33 オオマツヨイグサ*

Oenothera erythrosepala Borbas *O. Lamarckiana* Seringe

No. 34 メマツヨイグサ*

Oenothera biennis L.

みそはぎ科 Lythraceae

No. 35 エゾミソハギ

Lythrum Salicaria L.

ぶどう科 Vitaceae

No. 36 ノブドウ

Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv. *A. heterophylla* (Thunb.) Sieb. et Zucc. non blume

まめ科 Leguminosae

No. 37 メドハギ

Lespedeza cuneata (Du Mont de Courset) G. Don L. *sericea* Miq.

No. 38 ミヤコグサ

Lotus corniculatus L. var. *japonicus*

No. 39 ハマエンドウ

Lathyrus maritimus (L.) Bigel.

No. 40 ムラサキツメクサ*

Trifolium pratense L.

ばら科 Rosaceae

No. 41 ナガホノシロワレモコウ

Sanguisorba tenuifolia Fisch. *alba* (Trautv. et Mey.) Kitam.

あぶらな科 Cruciferae

No. 42 ハマハタザオ

Arabis Stelleri DC. var. *japonica* (A. Gray) Fr. Schmidt

きんぼうげ科 Ranunculaceae

No. 43 アキカラマツ

Thalictrum minus L. var. *hypoleucum*

すいれん科 Nymphaeaceae

No. 44 ヒツジグサ

Nymphaea tetragona Georgi

なでしこ科 Caryophyllaceae

No. 45 カワラナデシコ

Dianthus superbus L. subsp. *longicalycinus* (Maxim.) Kitam.
D. superbus F. *longicalycinus* Maxim., *D. longicalyx* Miq.

No. 46 オオヤマフスマ

Moehringia lateriflora (L.) Fenzl

あかざ科 Chenopodiaceae

No. 47 オカヒジキ

Salsola komarovii Iljin

たで科 Polygonaceae

No. 48 ヒメスイバ*

Rumex acetocella L.

No. 49 サナエタデ

Polygonum lapathifolium L.

らん科 Orchidaceae

No. 50 ネジバナ

Spiranthes sinensis (Pers.) Ames subsp. *australis* (R. Br.)
Kitam. *Neottia australis* R. Br. Brodr. 319 (1810),
Spiranthes australis (R. Br.) Lindley

あやめ科 Iridaceae

No. 51 フハナショウブ

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai

ゆり科 Liliaceae

No. 52 オニユリ

Lilium lancifolium Thunberg L. *tigrinum* Ker-Gawl.

No. 53 タチキボシ

Hosta rectifolia Nakai H. *atropurpurea* Nakai, H.
sachalinensis Koidzumi

いぐさ科 Juncaceae

No. 54 イ

Juncus effusus L. var. *decipiens* Buchen.

No. 55 クサイ

Juncus tenuis Willd.

No. 56 イメイ (ヒライ)

Juncus yokosensis (Fr. et Sav.) Satake J. *Fauriei* Lev. et
Vant.

かやつりぐさ科 Cyperaceae

No. 57 フトイ

Scirpus lacustris L. subsp. *creber* (Fern.) T. Koyama S.
validus Vahl, *S. lacustris* auct. jap. non L., S.
Tabernaemontani auct. jap. non Griseb.

No. 58 アブラガヤ

Scirpus Wichurii Bockl. forma *concolor*

- No. 59 コウボウムギ
Carex kobomugi Oiwai
- No. 60 チャシバスゲ
Carex caryophyllea Latour. subsp. microtricha T. Koyama
C. microtricha Franchet
- No. 61 コウボウシバ
Carex pumila Thunb.

いね科 Gramineae

- No. 62 ハマニンニク (テンキグサ)
Elymus mollis Trinicus
- No. 63 ウシノケグサ
Festuca ovina L.
- No. 64 ナガハグサ *
Poa pratensis L.
- No. 65 ヌマガヤ
Molinia japonica Hackel
- No. 66 ヨシ
Phragmites communis Trinicus
- No. 67 コメカグサ *
Agrostis alba L.
- No. 68 キンエノコロ
Setaria glauca (L.) P. Beauv. Panicum glaucum L., Setaria pumila Roem. et Schult.
- No. 69 アキメヒシバ
Digitaria violascens Link Digitaria chinensis Hornemann
- No. 70 エゾヌカホ
Agrostis scabra Willd.
- No. 71 オギ
Miscanthus sacchariflorus (Maxim.) Benthani
- No. 72 ススキ
Miscanthus sinensis Anderss.

はなわらび科 Botrychiaceae

- No. 73 フユノハナワラビ
Scepitridium ternatum (Thunb.) Lyon

おしだ科 Aspidiaceae

- No. 74 ヒメシダ
Lastrea thelypteris (L.) Bory

みずごけ科 Sphanaaceae

- No. 75 ミズゴケ属 sp.

すぎごけ科 Polytrichaceae

- No. 76 スギゴケ科 sp.

はなごけ科 Cladoniaceae

- No. 77 ハナゴケ
Cladonia rangiferina (L.) Web.

木 本

まめ科 Leguminosae

- No. 78 イタチハギ (クロバナエンジュ) *
Amorpha fruticosa L.

びら科 Rosaceae

- No. 79 ハマナス
Rosa rugosa Thunberg R. rugosa var. Thunbergiana C. A.

注) 帰化植物には、* 印を付した。

植物採集者: 高橋美智子, 富田智恵, 与那覇モト子

あとがき

現地調査に入ったのは7月はじめ、まだヒバリの囀りが聞こえる時期だった。まずすべての基礎となる測量からはじまったが、調査員全員が原因不明の皮膚の炎症になやまされた。細かいアブツブツが物たまって出てむやみにかゆい。あとで聞いたら医者に通った人が2名、アレコレのクスリで手当てした人が4名、なかには、はいていたジーンズを洗濯したあとで顔がはいたら、顔もやられたという人もいた。虫か植物か・・・？監視のおじさんは「毛虫の粉だ」と言うのだが。

それにしても風の強いところであることよ、なにしろ立っていると川面から水しぶきが飛んでくる。分布図づくりは、画板に地図をはさんで色鉛筆でぬっていくのだが、風の西側すべてを大型のパンチでとめなければ作業ができない。ページをめくるときは地べたにおいてやとめくる。ピラピラする紙をとばされては大変と、しっかりおさえこむ。そうこうするうちに紙はまんべんなくもまれて、昔のチリ紙みたいになってしまう。

この夏はことに暑かった。風は強い、日差しは烈しいで女性調査員はアゴの下でしっかりと結べる農作業帽、大画面、長ズボンに長靴という制限ができた。花川からバスで通う人、マイカーの人、バイクの人、短と長靴の中は砂と草の葉がたまっていた。町内に住み植物が好きで、普段からかなり通っていたつもの者にもこの地区の植物リストを何度も増補していた研究者にも、未知の発見が数々あった。自然は通りすがりの者にも、深入りする者にも、いつも新たなページを開いてくれる。

一日の日差しによって浮き沈みする色——ハマタザオの枯れ茶、ハマエンドウの白っぽい緑は、朝か夕への斜光でないと探しづらい、ヒツジグサはひつじの斜でないとつぼみが開かない——また季節によってがらりと変化する野の花たち——調査のはじめには、見事な紫のカーベットを敷いていたハマエンドウが、炎暑とともに消えかろうじて地上に残った枯れ茶でその存在をはかっていたのに、渡り鳥の声が空をわたり秋が深まるともに二度めの春

をむかえたかのように野はふたたび水々しさをとりもどし、春にもまして深みを増した美しい色の花を再開した。

各人それぞれのスケジュールをやりくりして仕掛けてきた調査員を野はいつも、かえって清新な活力でみだしてくれた。この感動の原因はこの地区の自然の手に汚されていない美しさとスケールの大きさ、そして、自然というものがただ偶然の寄せ集めではなく、時間と空間の正しい順序、手続きをへて在列されていることへの驚きだと思う。

あるとき私達はポッチリのぞいているイソスミレの根を掘ってみた。軽い気持ちで掘り始めた根はかよわいくせになかなかおわらずついに20cmに達した。地上部分は1cmほどのイソスミレだった。さしもの強顔のなかで、けして散らないマナスの花、地上の背丈の20倍の長さの根で砂の中の水分を確保しているイソスミレ。ここに私達は石狩の魂を見る。

何十日と通いながら一日ごとに感動と発見があった、たのしかった、この自然を是非次の世代に残さなくては、というのが調査員全員の思いである。

おわりに、調査と調査報告書、標本の作成にあたっては、以下の諸氏のご協力、ご助言をおいだ。ご多忙のなか快く応じて下さったご好意に心から感謝します。

桑原 義晴(有朋高校講師「北海道の雑草」著者)

清水 雅男

辻井 達一(北海道大学教授)

乳井 幸教(北海道道立理科教育センター)

原 松次(北海道植物区鑑)著者)

野生生物情報センター

(アイウエオ順)

また、測量その他でお世話になった石狩市教育委員会の石橋孝夫文化財係長・同工藤衛文化財係・海浜植物保護地区監視員 伊佐木・河野 氏氏にも厚くお礼を申し上げます。